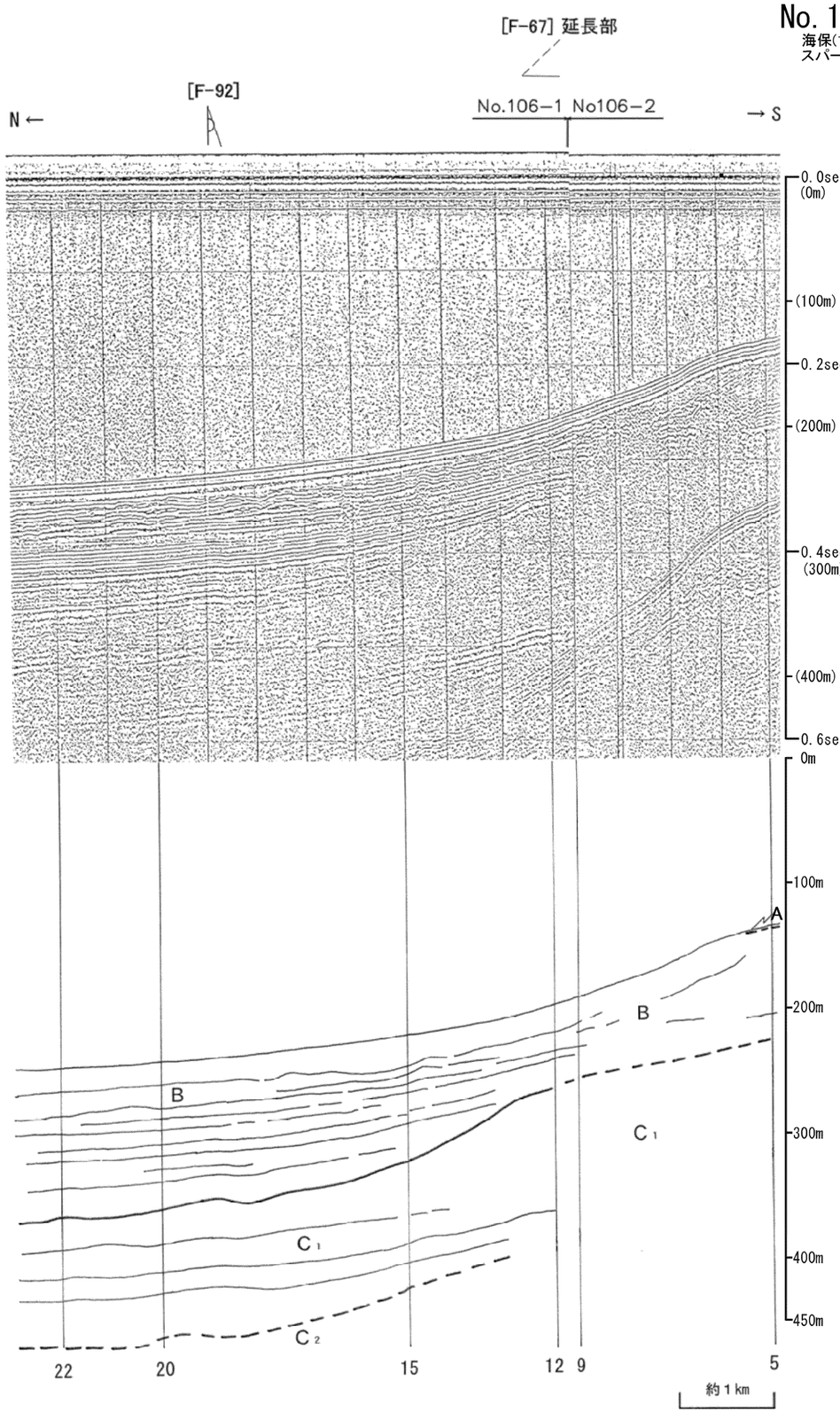
No. 106
海保(1980)
スパーカー



音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。

地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

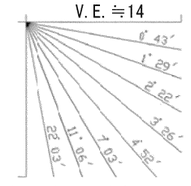
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

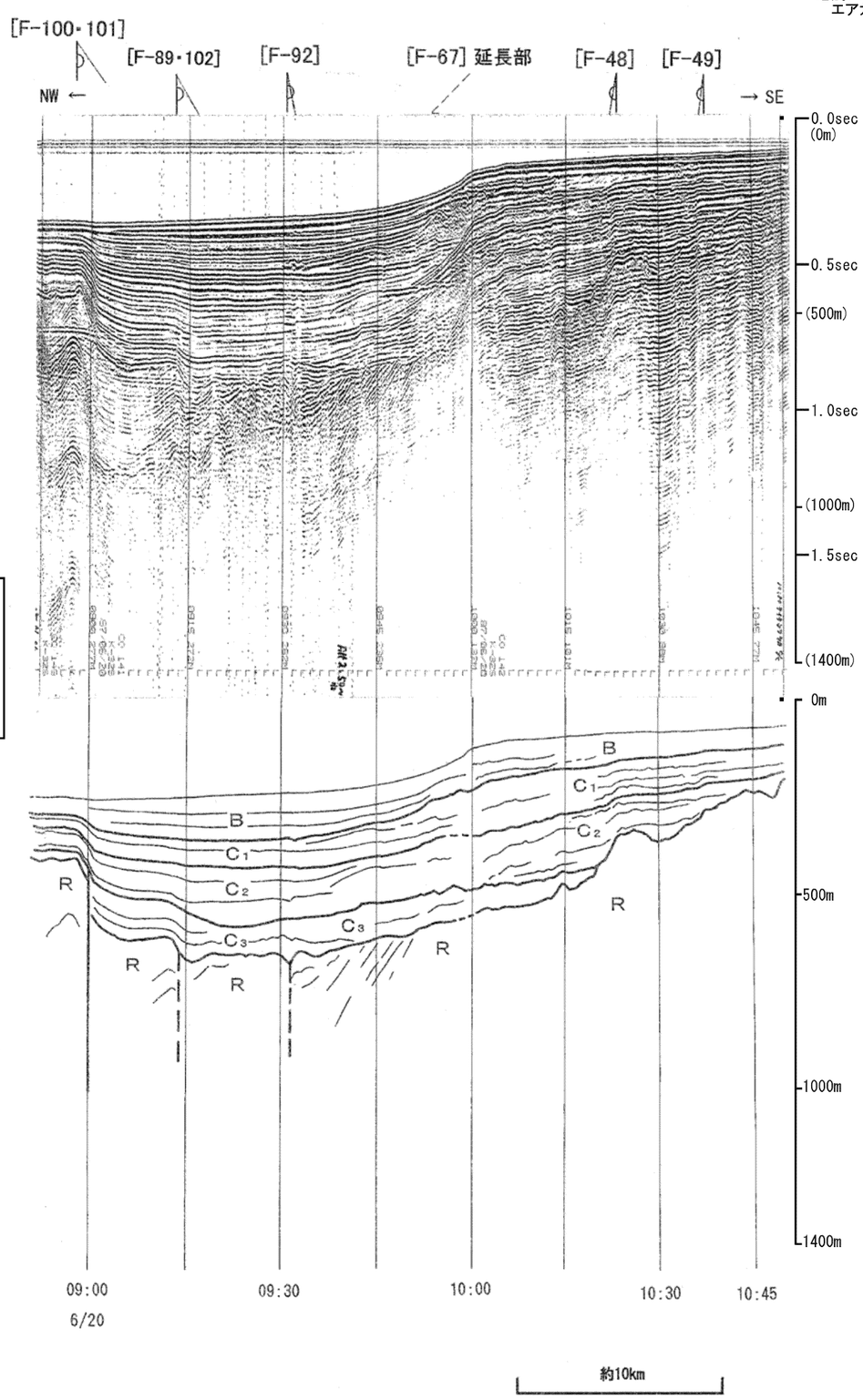


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(2)　野坂断層，Ｂ断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.106-1,2）

K-32
地調(2000)
エアガン



音波探査記録は、地質調査所（現産業技術総合研究所）の「ゲンタツ瀬海底地質図」の原資料である。

地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 / 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 / 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

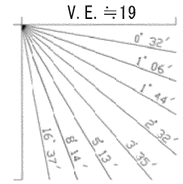
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

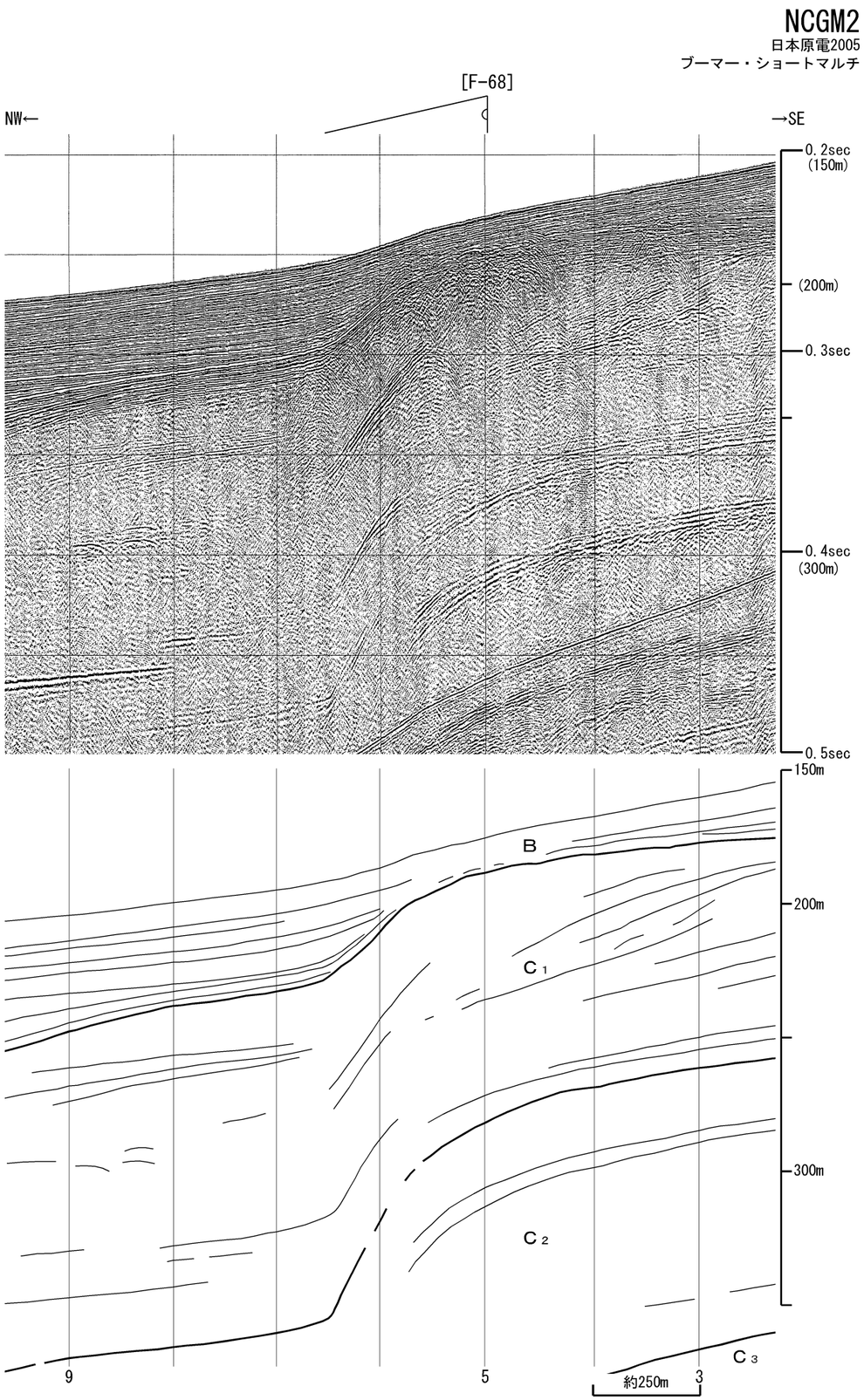
推定地層境界



数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(3)　野坂断層，Ｂ断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（K-32）



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 断層又は撓曲の延長位置

基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

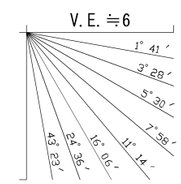
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

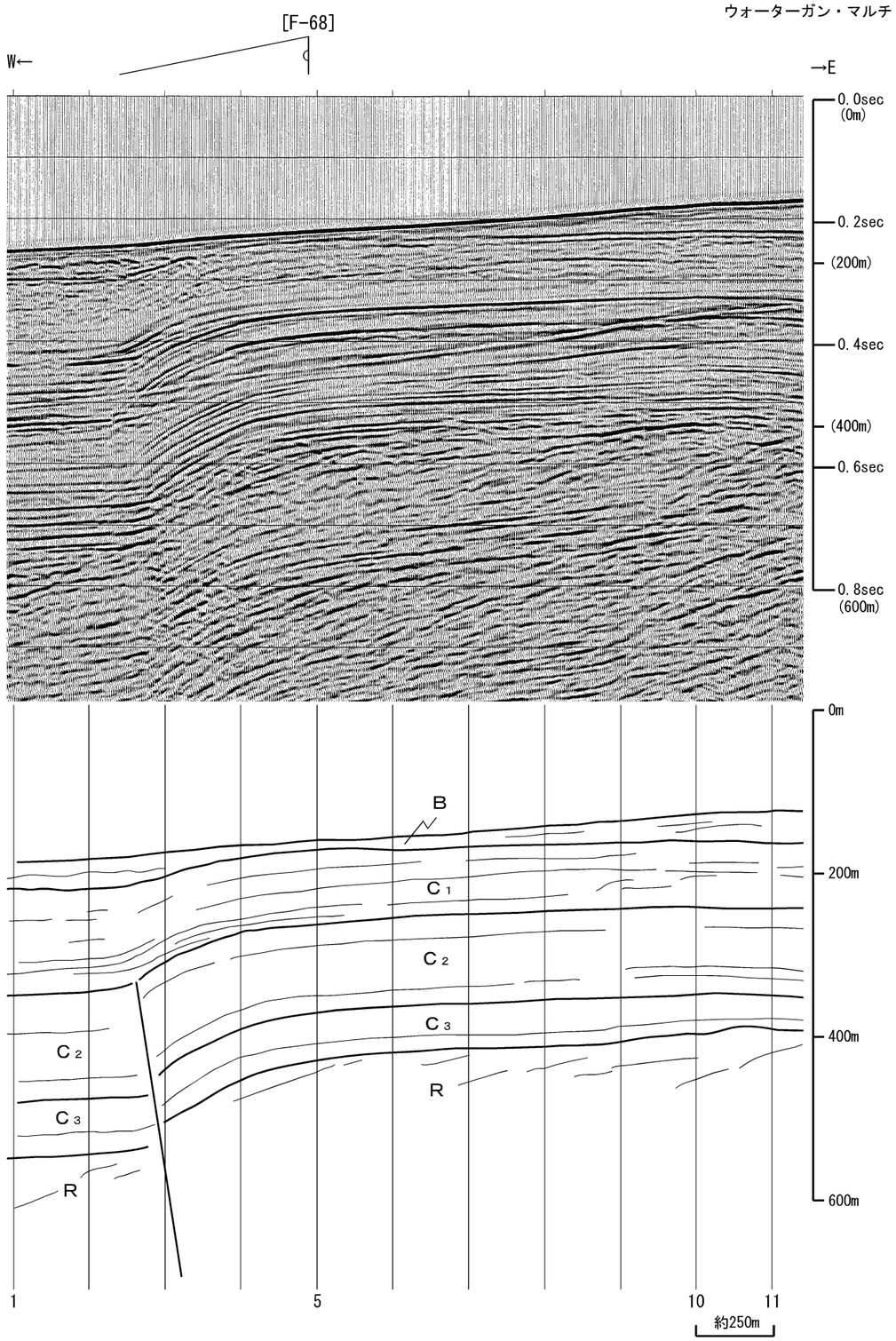


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(4)　野坂断層，B断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NCGM2）

NCWM4
日本原電2005
ウォーターガン・マルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

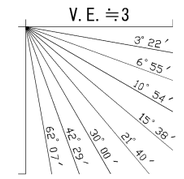
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

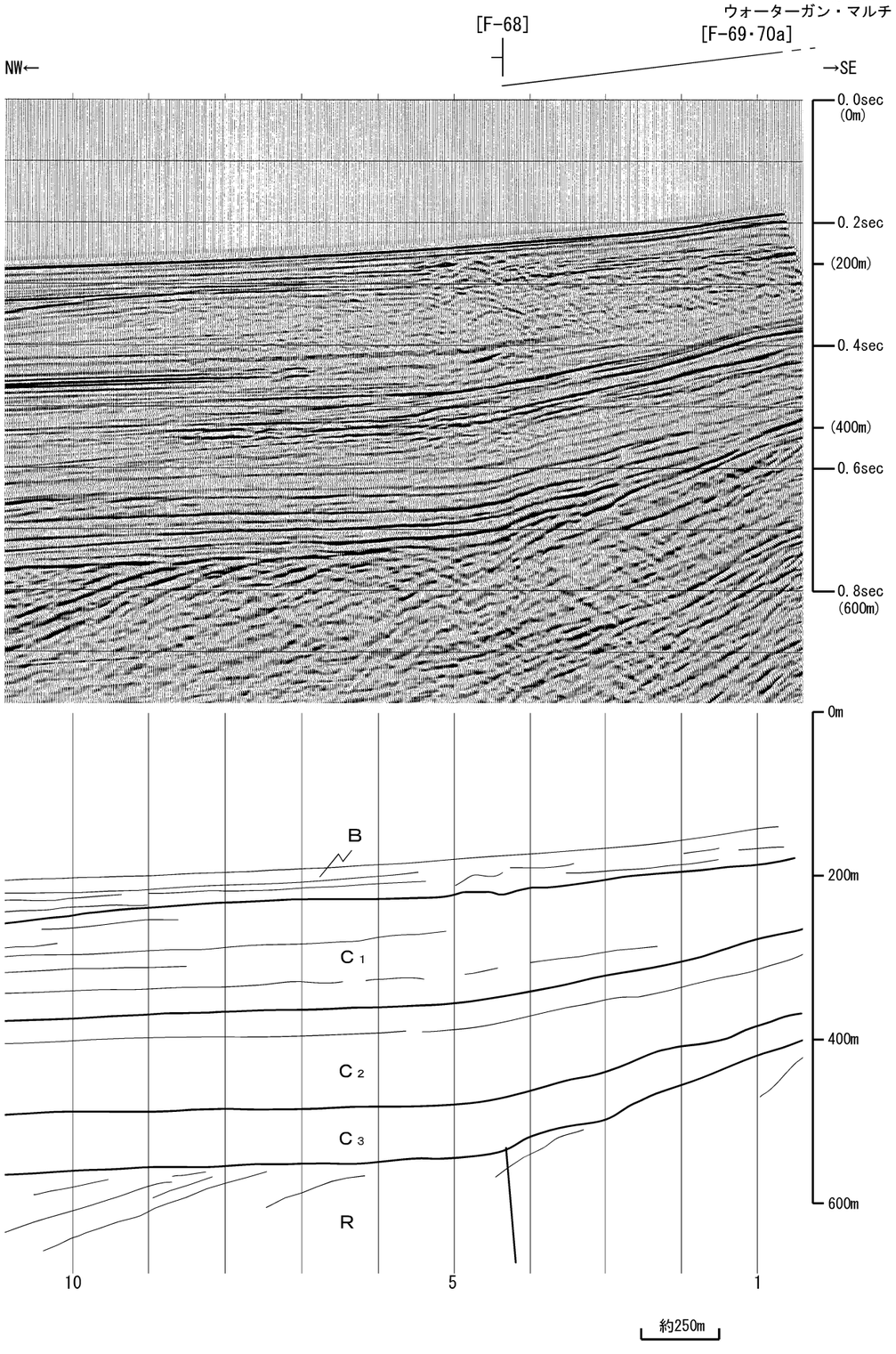


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(5)　野坂断層，Ｂ断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NCWM4）

NCWM3
日本原電2005
ウォーターガン・マルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

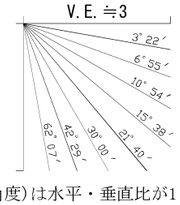
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

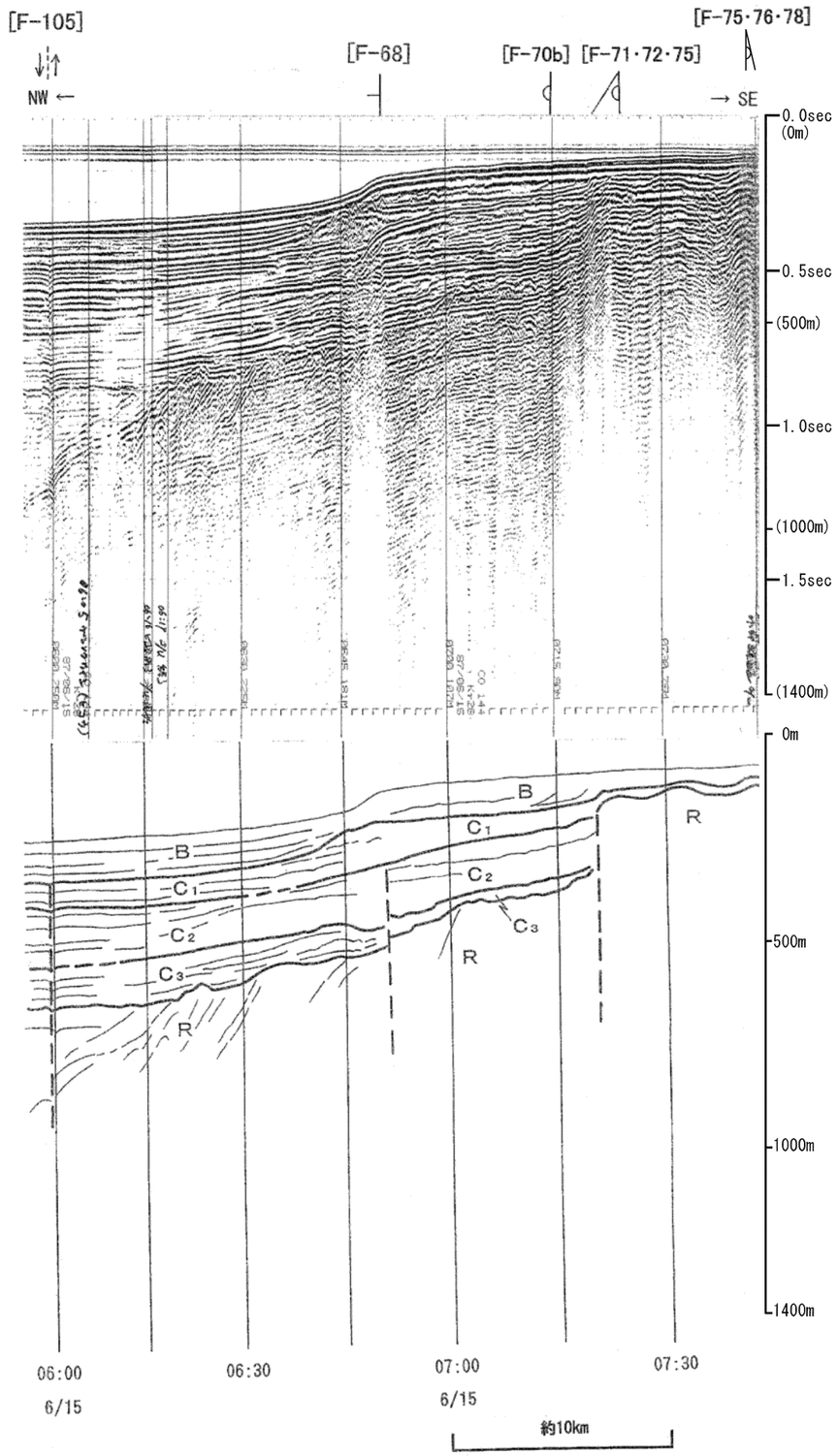


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(6)　野坂断層，Ｂ断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NCWM3）

K-28
地調(2000)
エアガン



音波探査記録は、地質調査所（現産業技術総合研究所）の「ゲンタツ瀬海底地質図」の原資料である。

地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

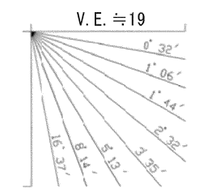
[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 / 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 / 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A	A層　完新統
B	B層　上部更新統
C1 C2 C3 C4	C層　最上部鮮新統～中部更新統
D	D層　下部～上部鮮新統
R	R層　先鮮新統～最下部鮮新統
	断層
	推定断層
	地層境界
	推定地層境界



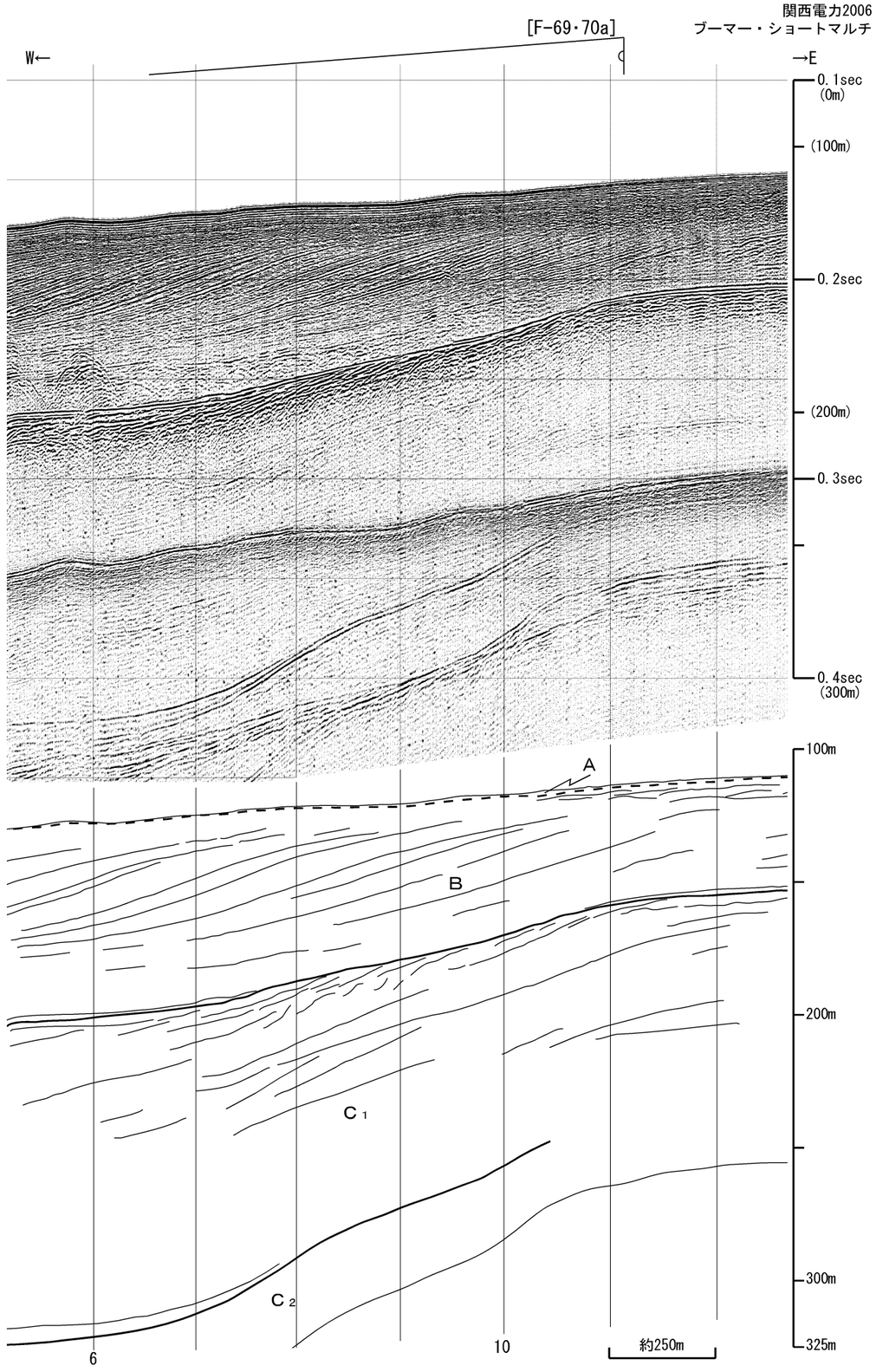
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(7)　野坂断層，B断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（K-28）

No. 26-2G

関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部／頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部／基部の延長位置　断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C（C 1, C 2, C 3, C 4）　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

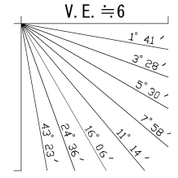
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

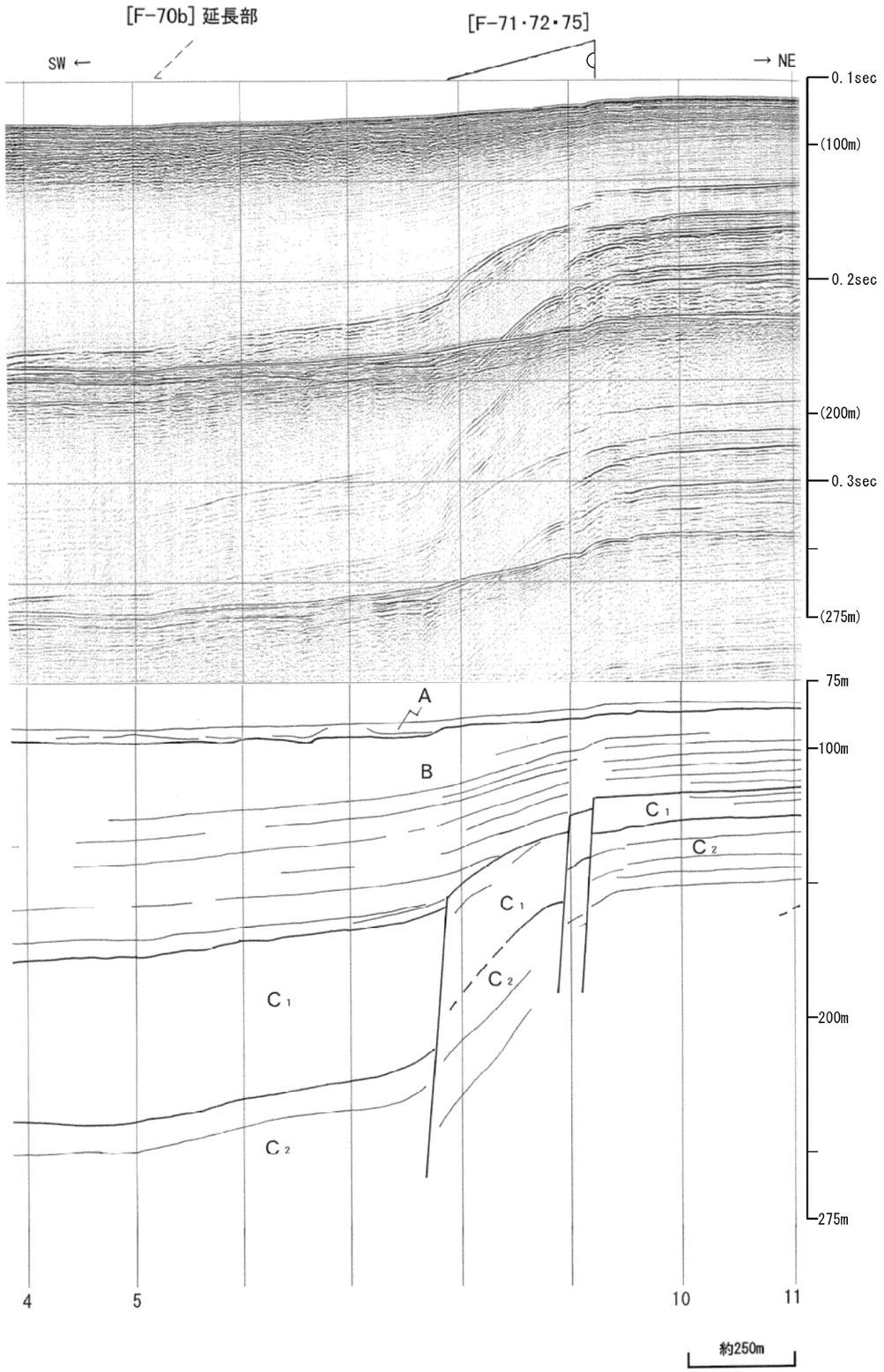


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(8)　野坂断層，B断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.26-2G）

NXGM2-4
日本原電2005
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

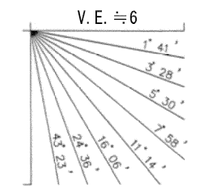
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



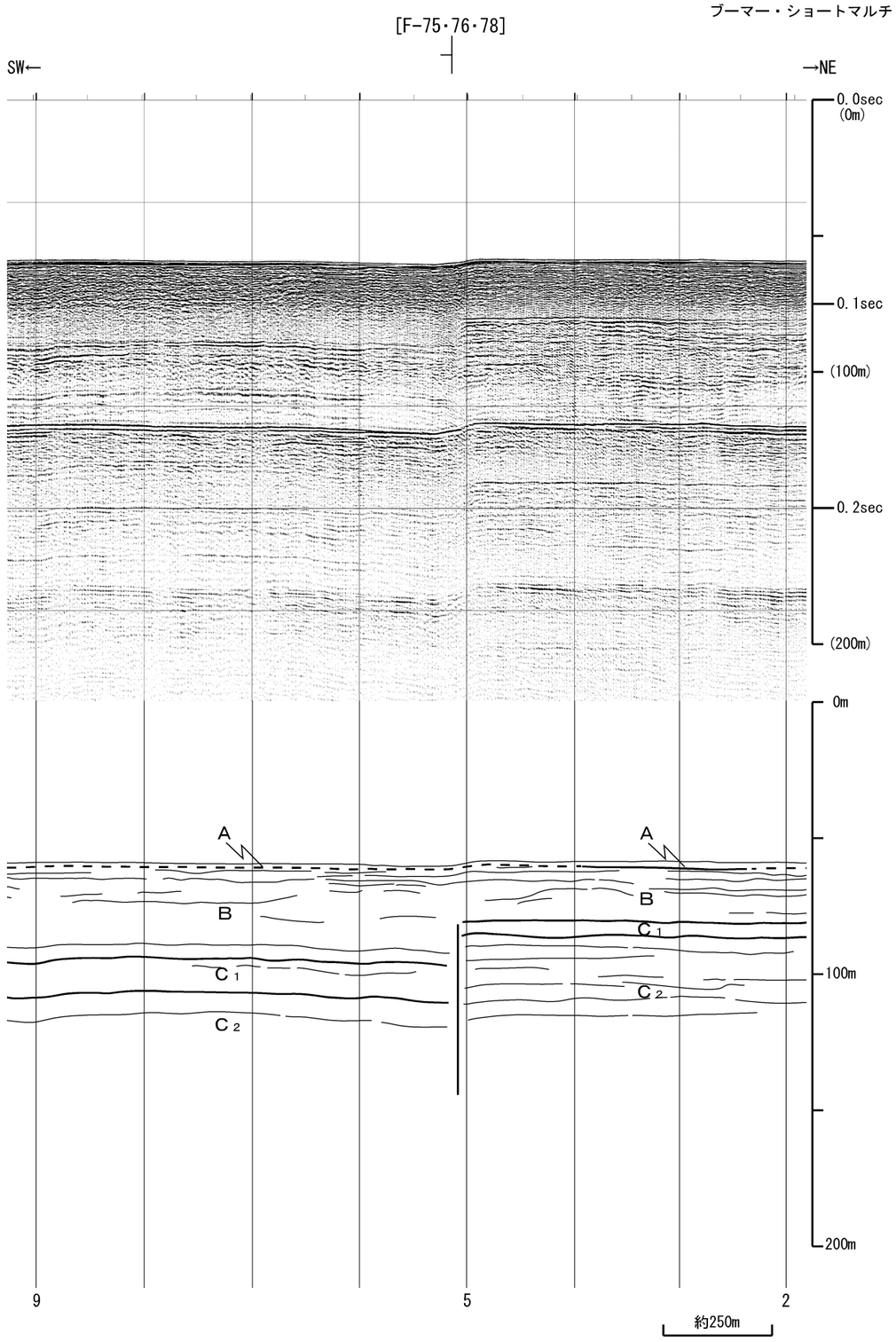
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(9)　野坂断層，B断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NXGM2-4）

N-1G

関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ

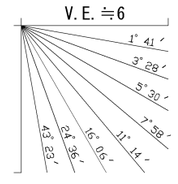


凡　例

[F-21]	断層及び断層番号
[F-2]	撓曲及び撓曲番号
基部／頂部	変形の及んでいる範囲
[F-2]延長部 ／ 基部の延長位置	断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A	A層　完新統
B	B層　上部更新統
C C1 C2 C3 C4	C層　最上部鮮新統～中部更新統
D	D層　下部～上部鮮新統
R	R層　先鮮新統～最下部鮮新統
	断層
	推定断層
	地層境界
	推定地層境界

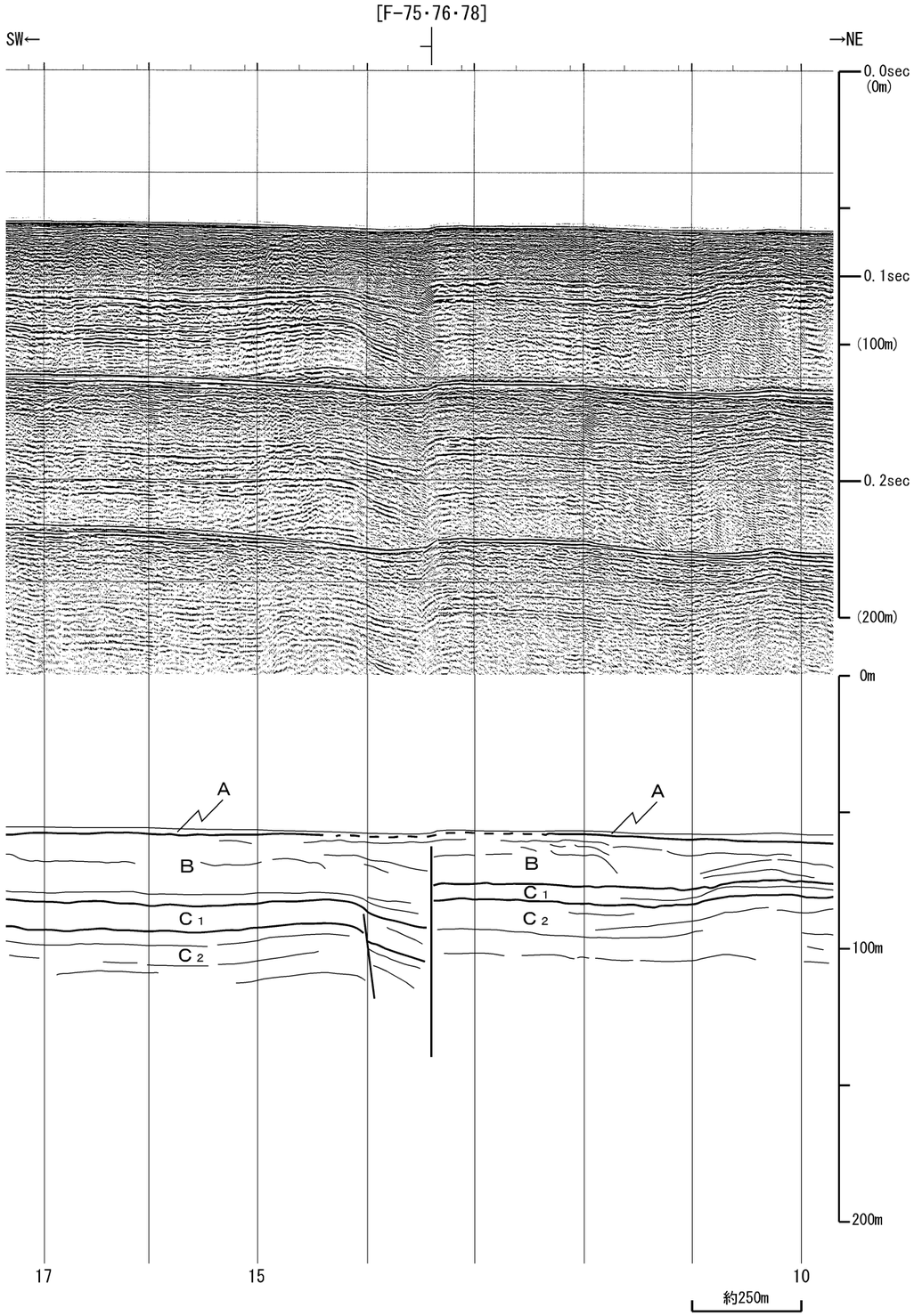


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(10)　野坂断層，Ｂ断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（N-1G）

NDGM8
日本原電2005
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

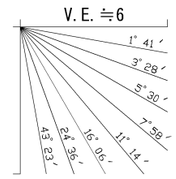
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



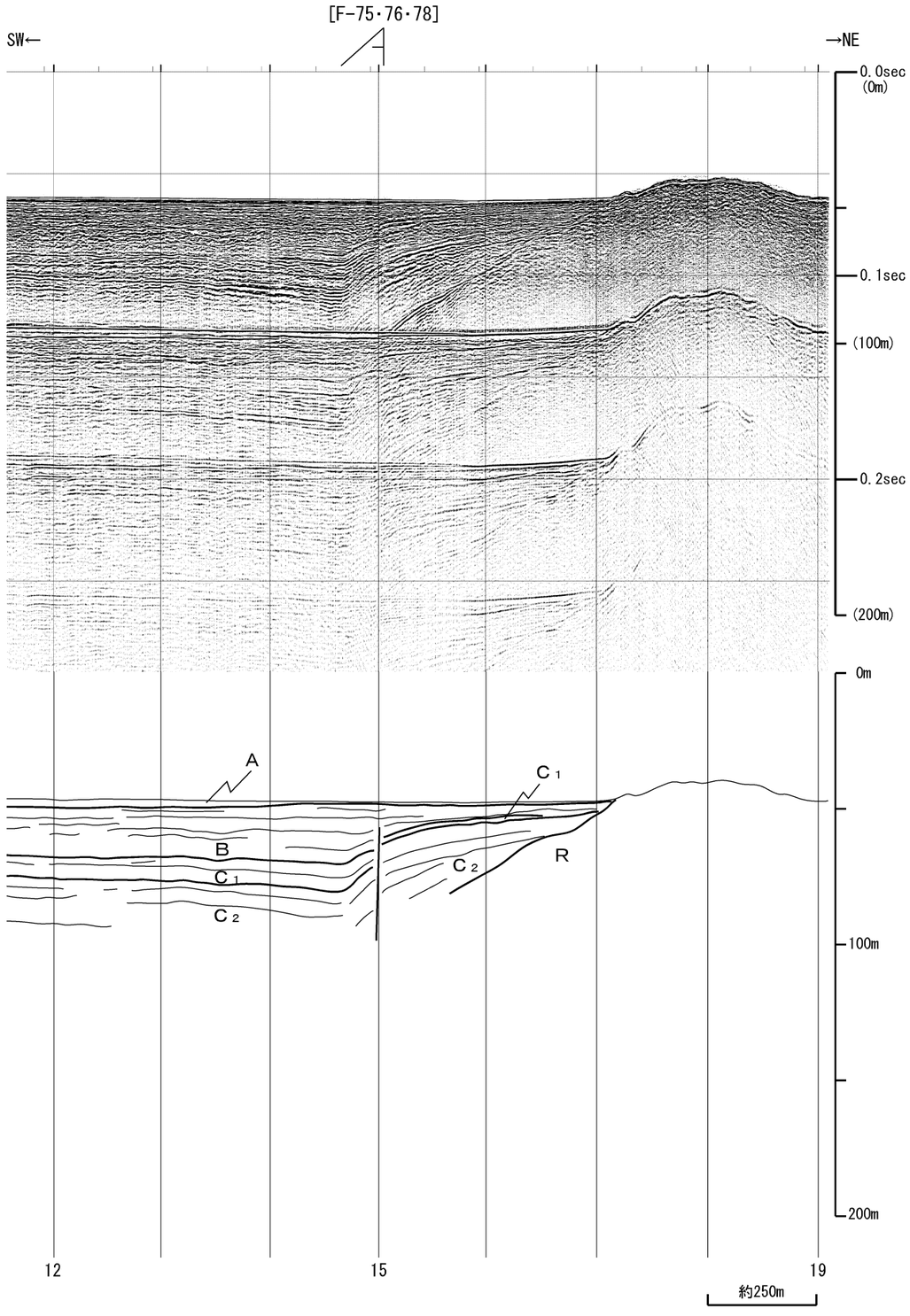
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(11)　野坂断層，Ｂ断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NDGM8）

N-9G

関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部／頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部　断層又は撓曲の延長位置
基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

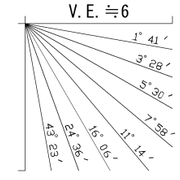
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



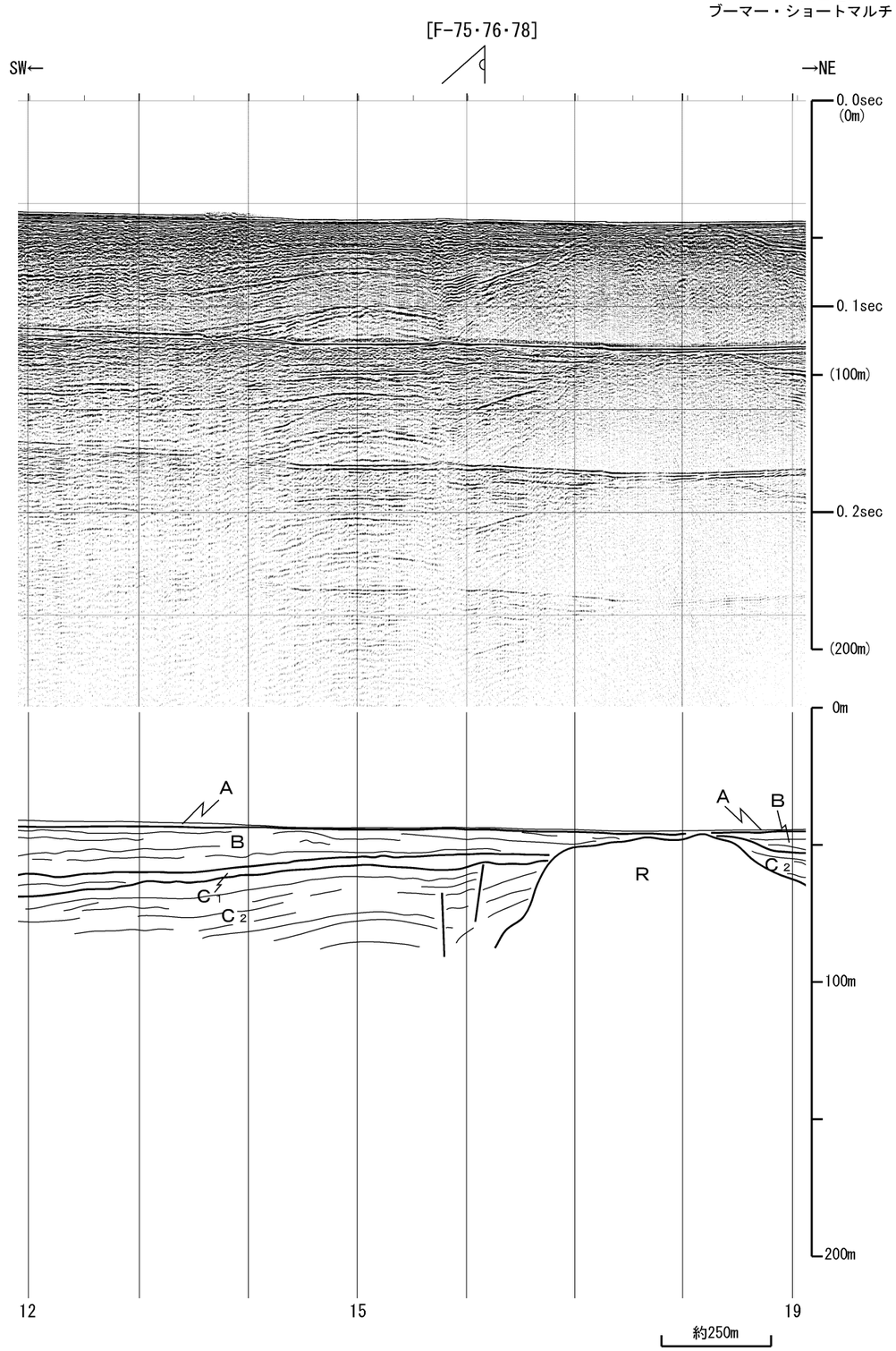
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(12)　野坂断層，B断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（N-9G）

N-10G

関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部／頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部
基部の延長位置　断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

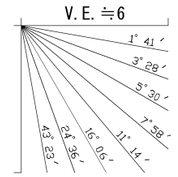
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



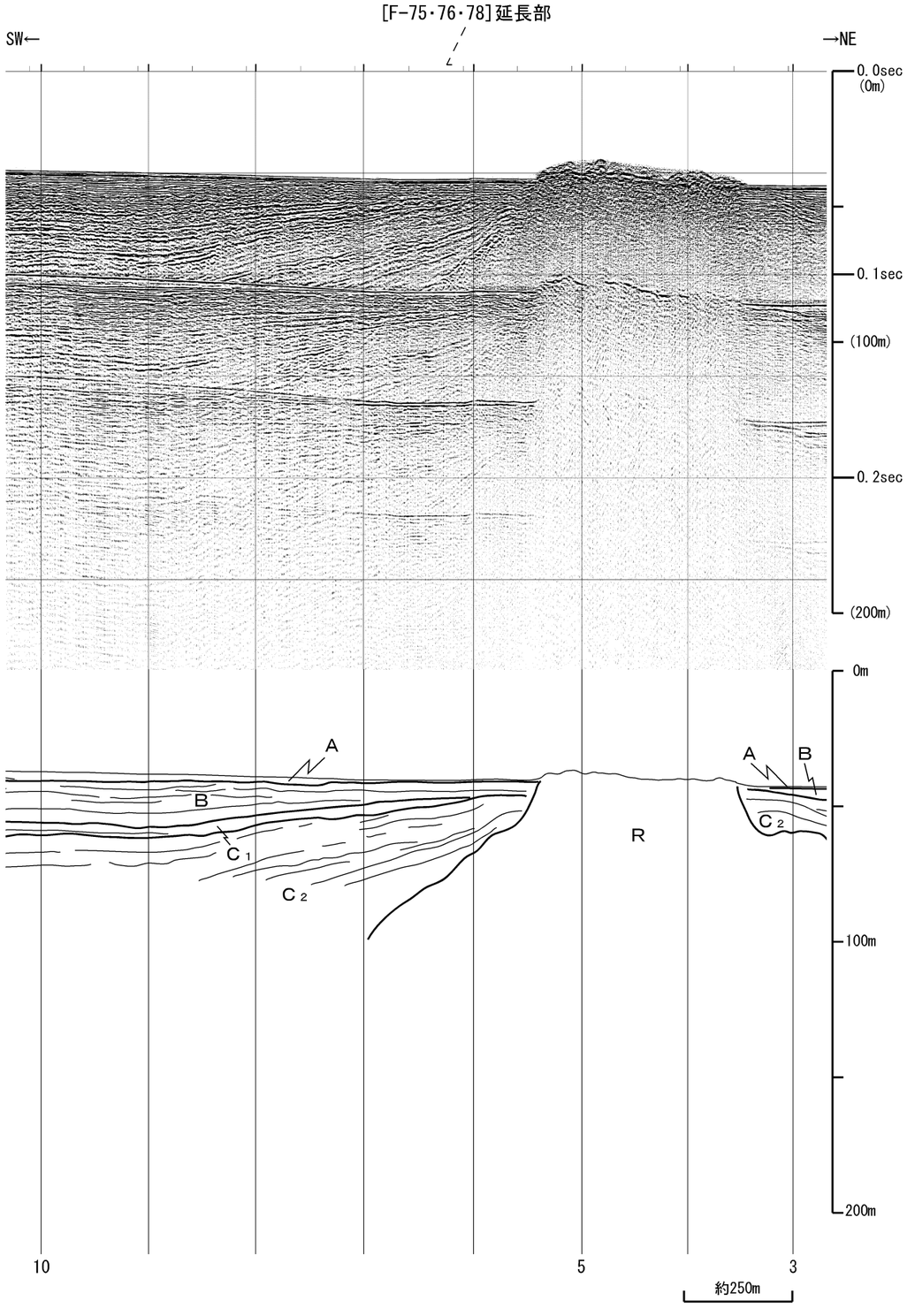
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(13)　野坂断層，Ｂ断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（N-10G）

N-11G

関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部／頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部
基部の延長位置　断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

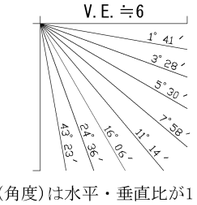
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



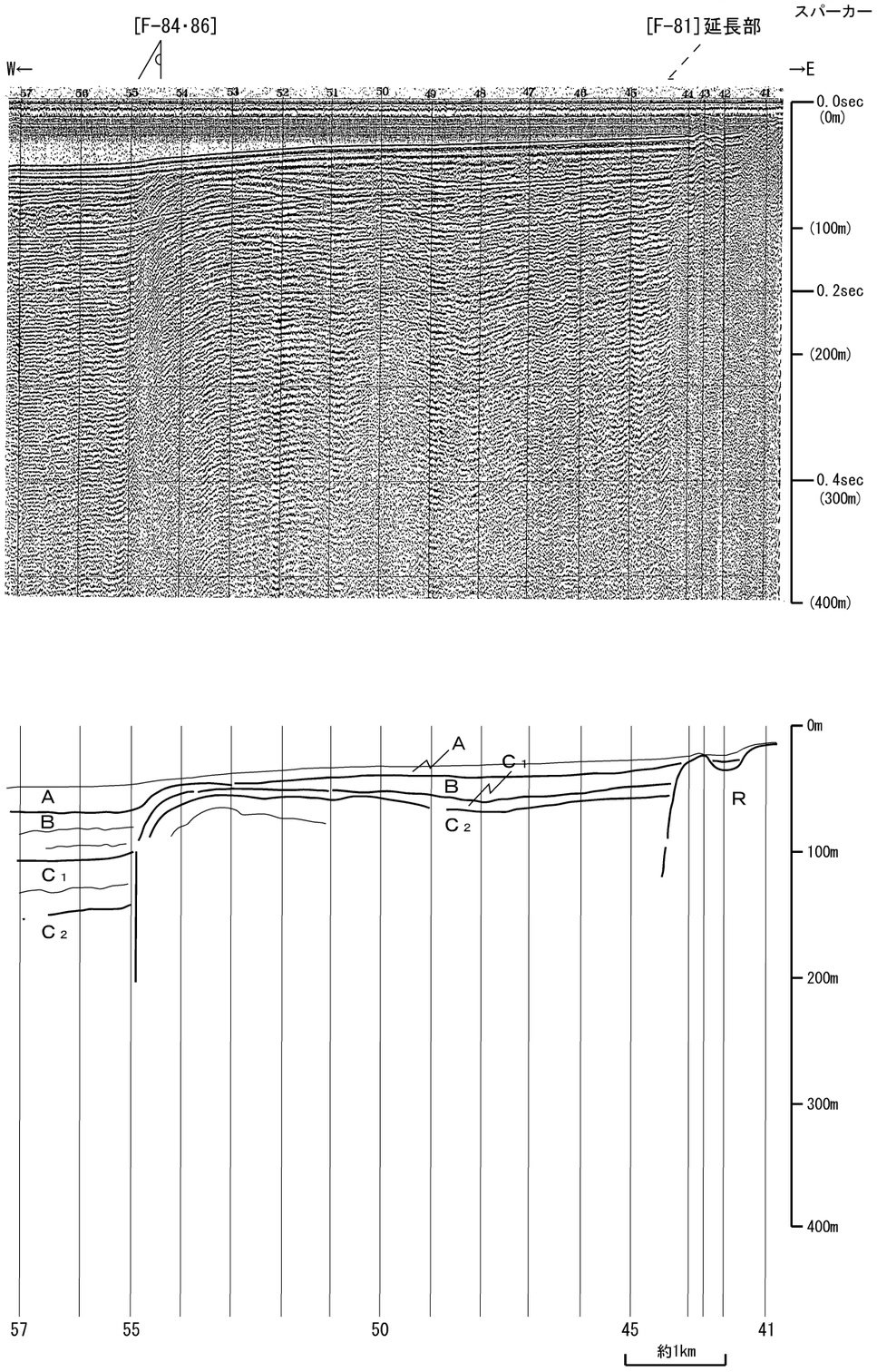
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(14)　野坂断層，Ｂ断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（N-11G）

E-4

動力炉・核燃料開発事業団1979
スパーカー

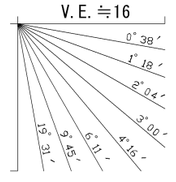


凡　例

[F-21]	断層及び断層番号
[F-2]	撓曲及び撓曲番号
基部／頂部	変形の及んでいる範囲
[F-2]延長部／基部の延長位置	断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A	A層　完新統
B	B層　上部更新統
C1 C2 C3 C4	C層　最上部鮮新統～中部更新統
D	D層　下部～上部鮮新統
R	R層　先鮮新統～最下部鮮新統
	断層
	推定断層
	地層境界
	推定地層境界

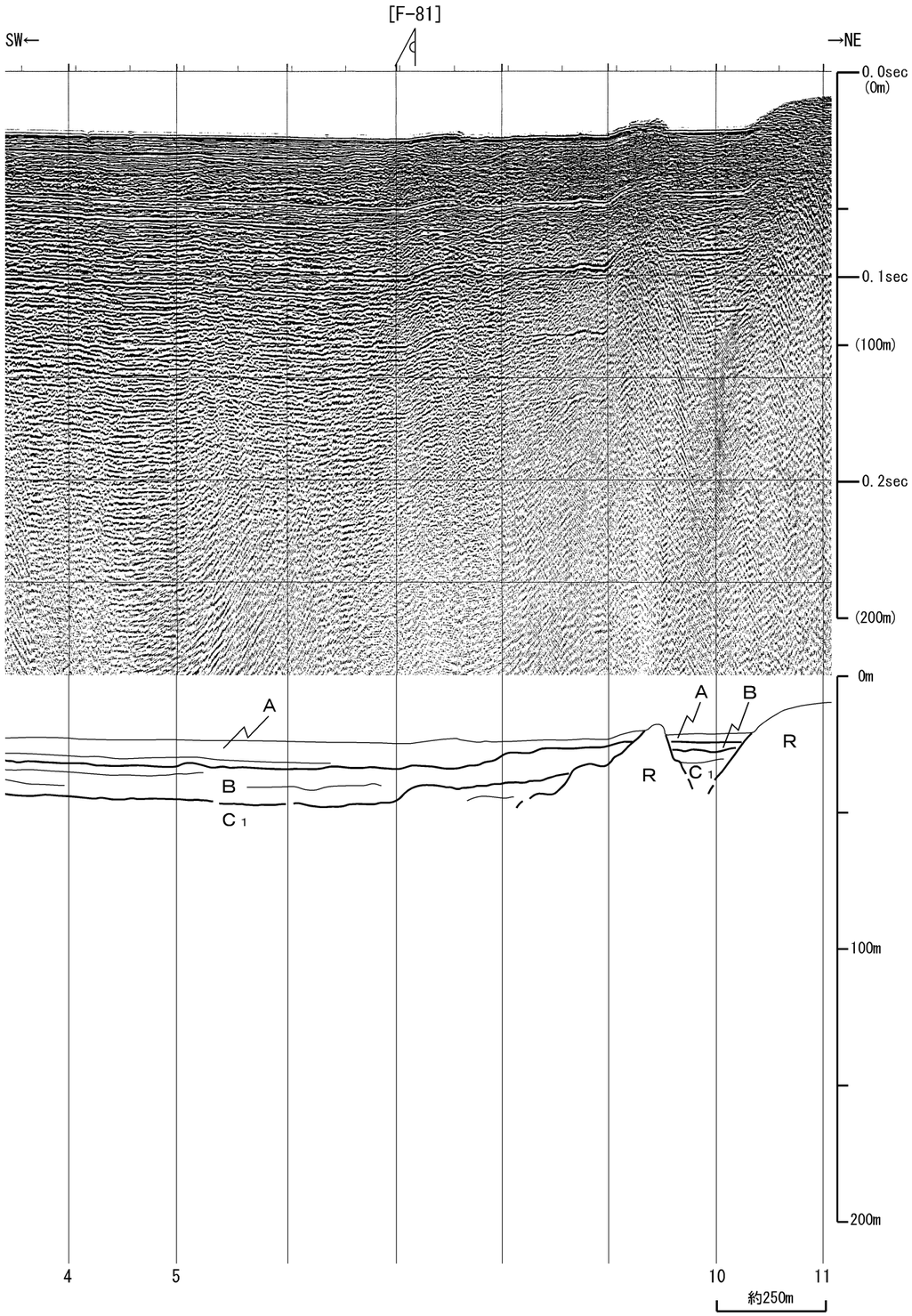


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(15)　野坂断層，Ｂ断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（E-4）

NDGM13
日本原電2005
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 断層又は撓曲の延長位置

基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

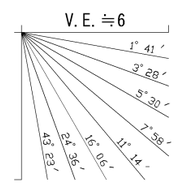
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

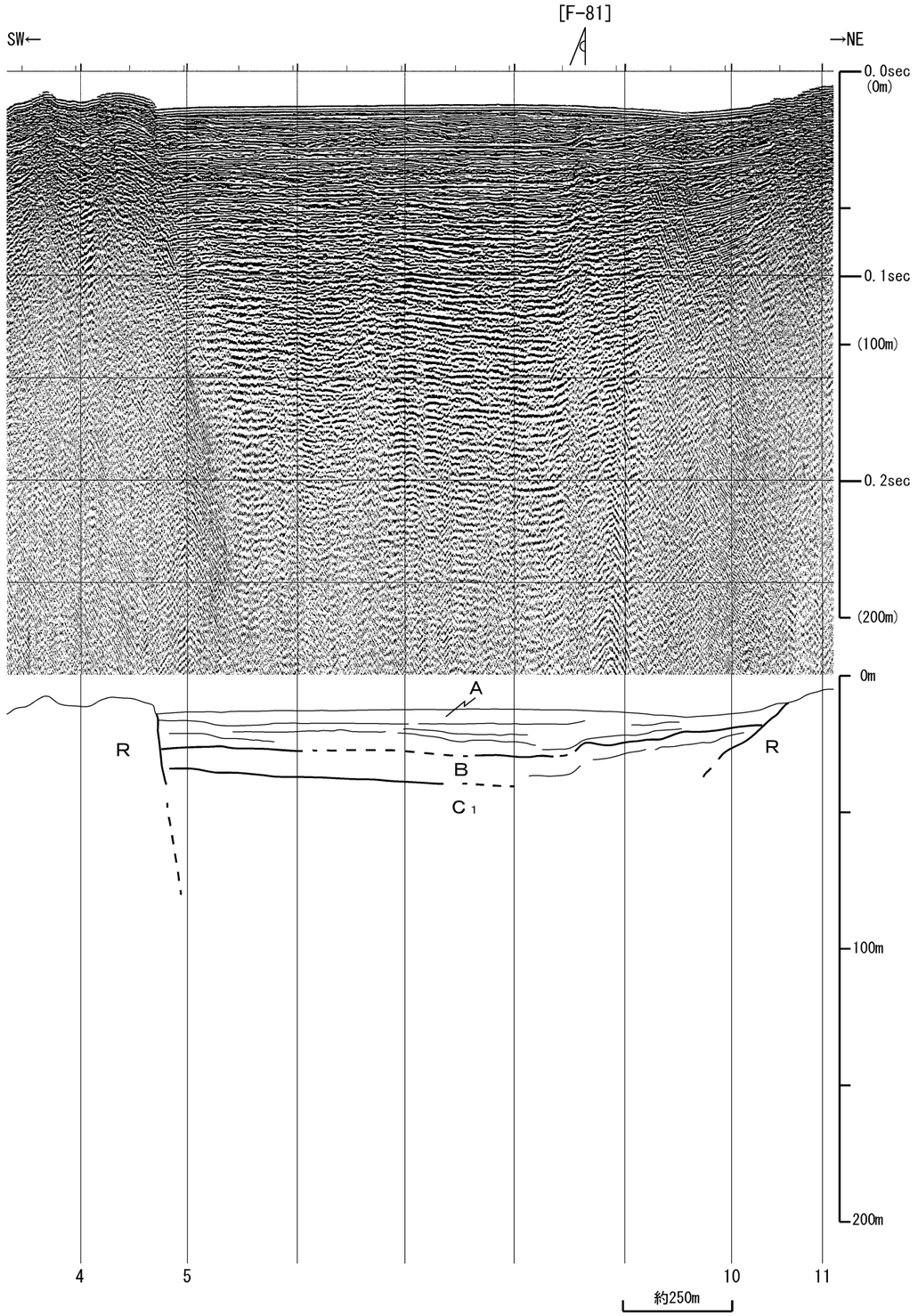


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.23図(16)　野坂断層，B断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NDGM13）

NDGM14
日本原電2005
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

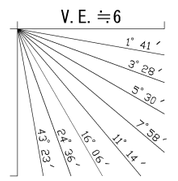
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

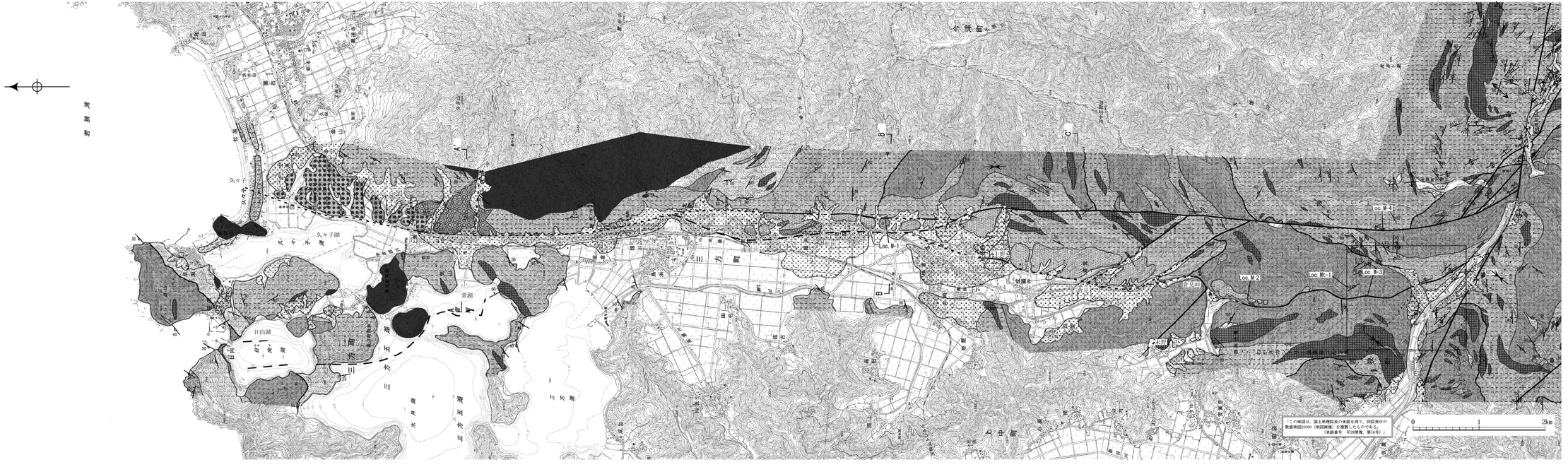
推定地層境界



数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

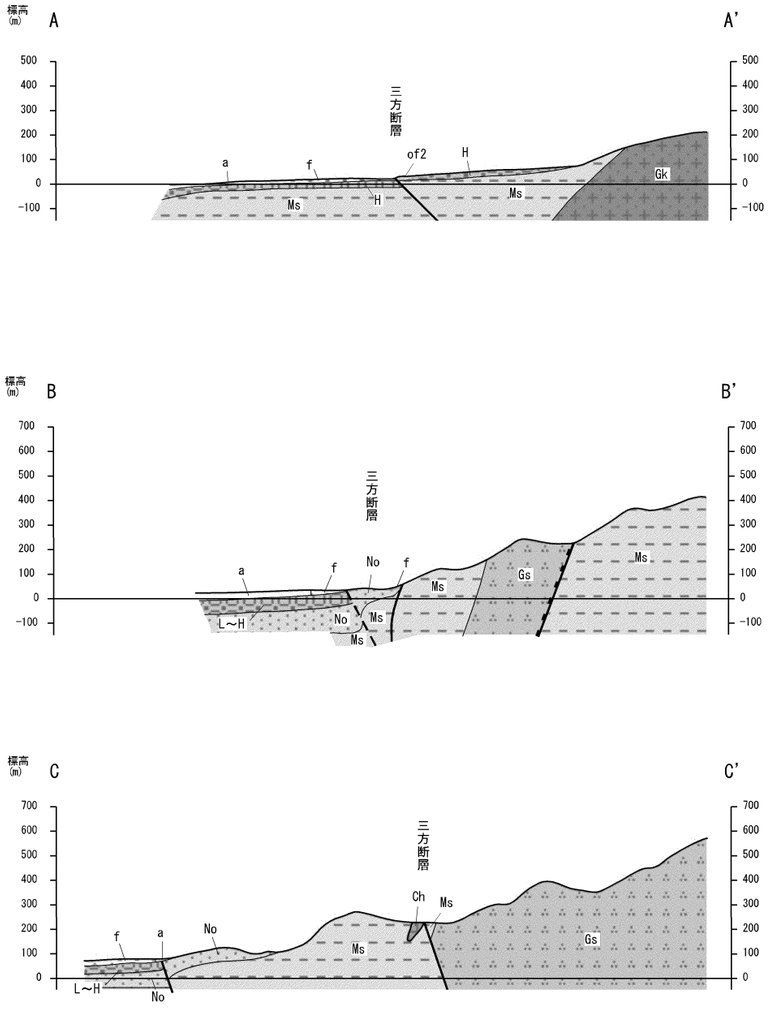
第1.2.3.1.23図(17)　野坂断層，B断層，大陸棚外縁断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NDGM14）



凡例

- 第四紀
  - a　沖積層
  - 砂丘砂層
  - 新期扇状地堆積物
  - 古期扇状地堆積物2
  - 古期扇状地堆積物1
  - 河成低位段丘堆積物
  - 海成中位段丘堆積物
  - 河成高位段丘堆積物
- Ng　鷹巣溶岩
- 後期白亜紀　雲谷山花崗岩
- 手取層群
  - Mc　泥岩（凝灰岩）
  - Ss　砂岩優勢部
  - Ch　チャート
  - Ash　石灰岩
  - Gn　緑色岩
- 古生層
- 地層面の走向・傾斜
- 劈開面の走向・傾斜
- 断層面の走向・傾斜
- 美濃ー丹波帯中・古生層ユニット境界
- 断層（確実）（推定）（伏在）
- アンチフォーム
- シンフォーム
- 地質断面図位置

第1.2.3.1.24図　三方断層周辺陸域の地質図



凡例

第四紀	a	沖積層
	f	新期扇状地堆積物
	of2	古期扇状地堆積物2
	L	河成低位段丘堆積物
	M	海成中位段丘堆積物
	H	河成高位段丘堆積物
	No	能登野層
後期白亜紀	Gk	雲谷山花崗岩
石炭紀〜ジュラ紀	Ms	泥岩（混在岩）
	Ch	チャート
	Gs	緑色岩

美濃ー丹波帯中・古生層

美濃ー丹波帯中・古生層ユニット境界

断層 (実在) (推定)

第1.2.3.1.25図　三方断層周辺陸域の地質断面図

凡　例

F-0　断層及び断層名
（後期更新世以降の活動を考慮する断層及び撓曲）

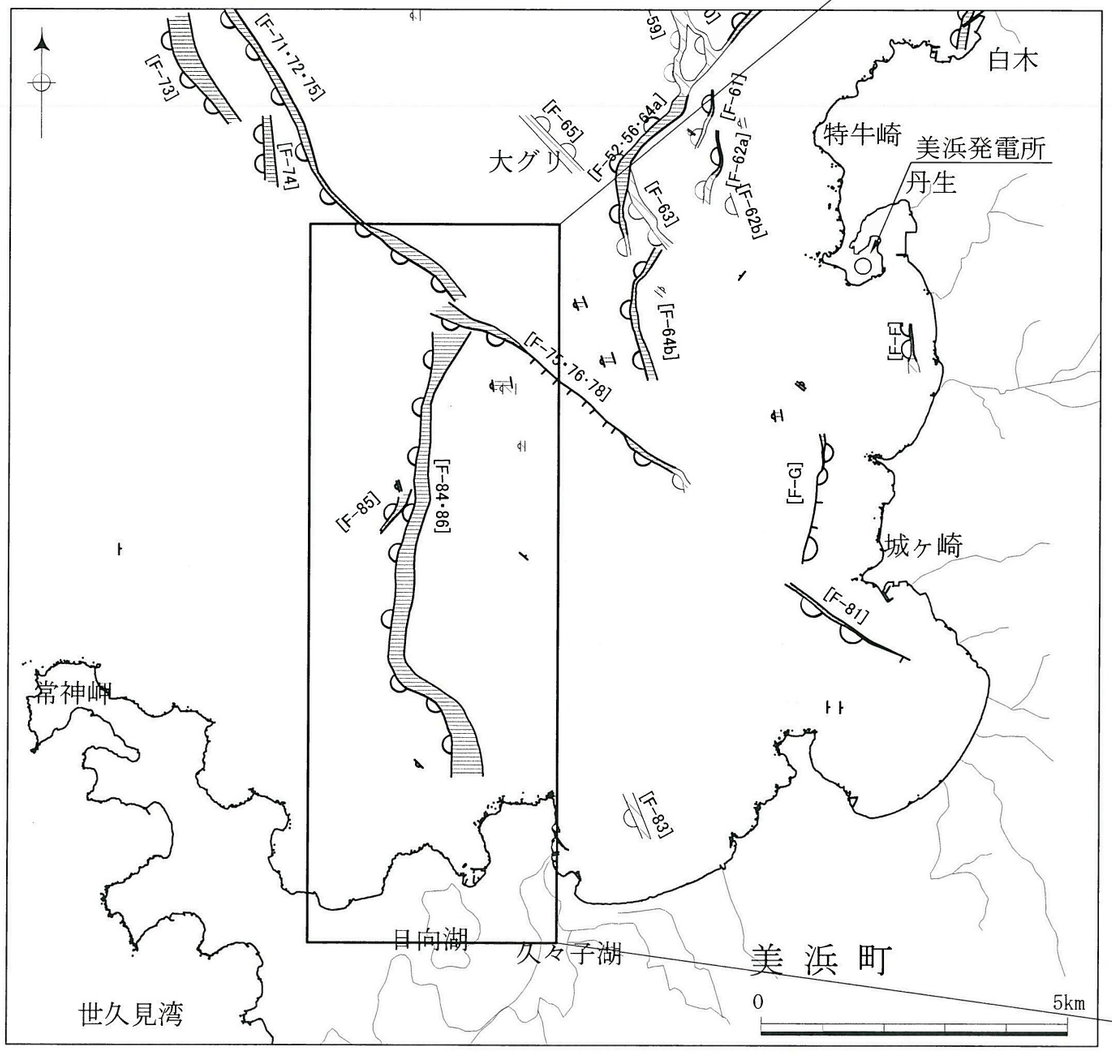
F-29　断層及び断層名
（後期更新世以降の活動が認められない断層及び撓曲）

連続性のない断層
（後期更新世以降の活動の可能性がある断層及び撓曲）

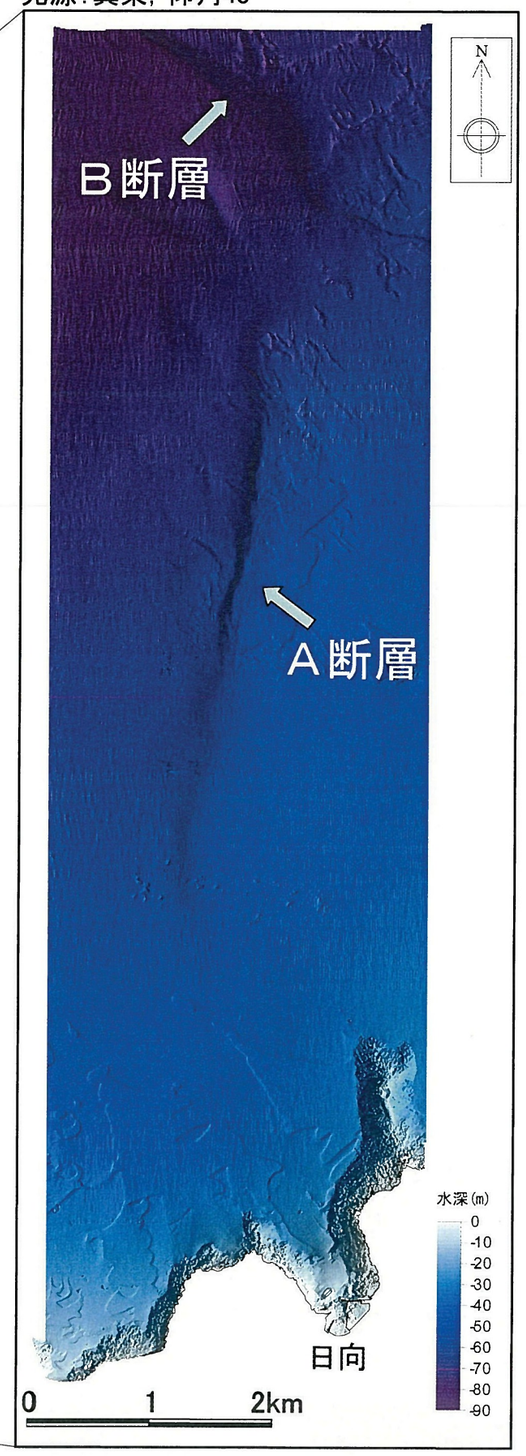
連続性のない断層
（後期更新世以降の活動が認められない断層及び撓曲）

基盤 / 頂部　変形の及んでいる範囲

＊　本調査ではB／C面以上に断層が認められず，撓み構造を示すものを撓曲として表示した。



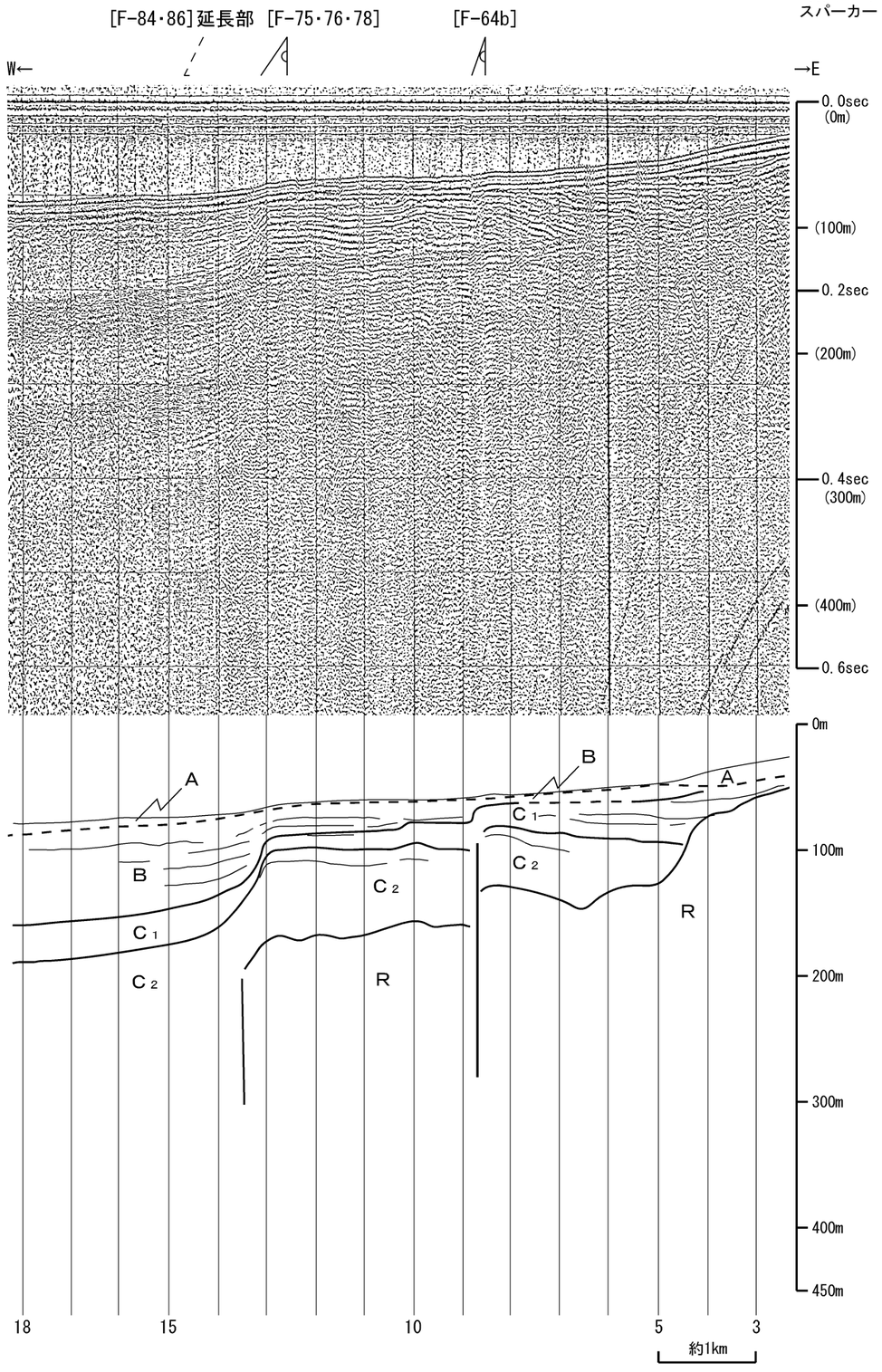
高さ強調：15倍
光源：真東，仰角40°



第1.2.3.1.26図　三方断層（海域）周辺の海底地形調査結果

No. 40-2

海保(1980)
スパーカー



音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。

地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

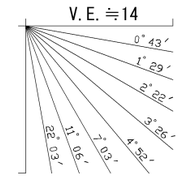
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

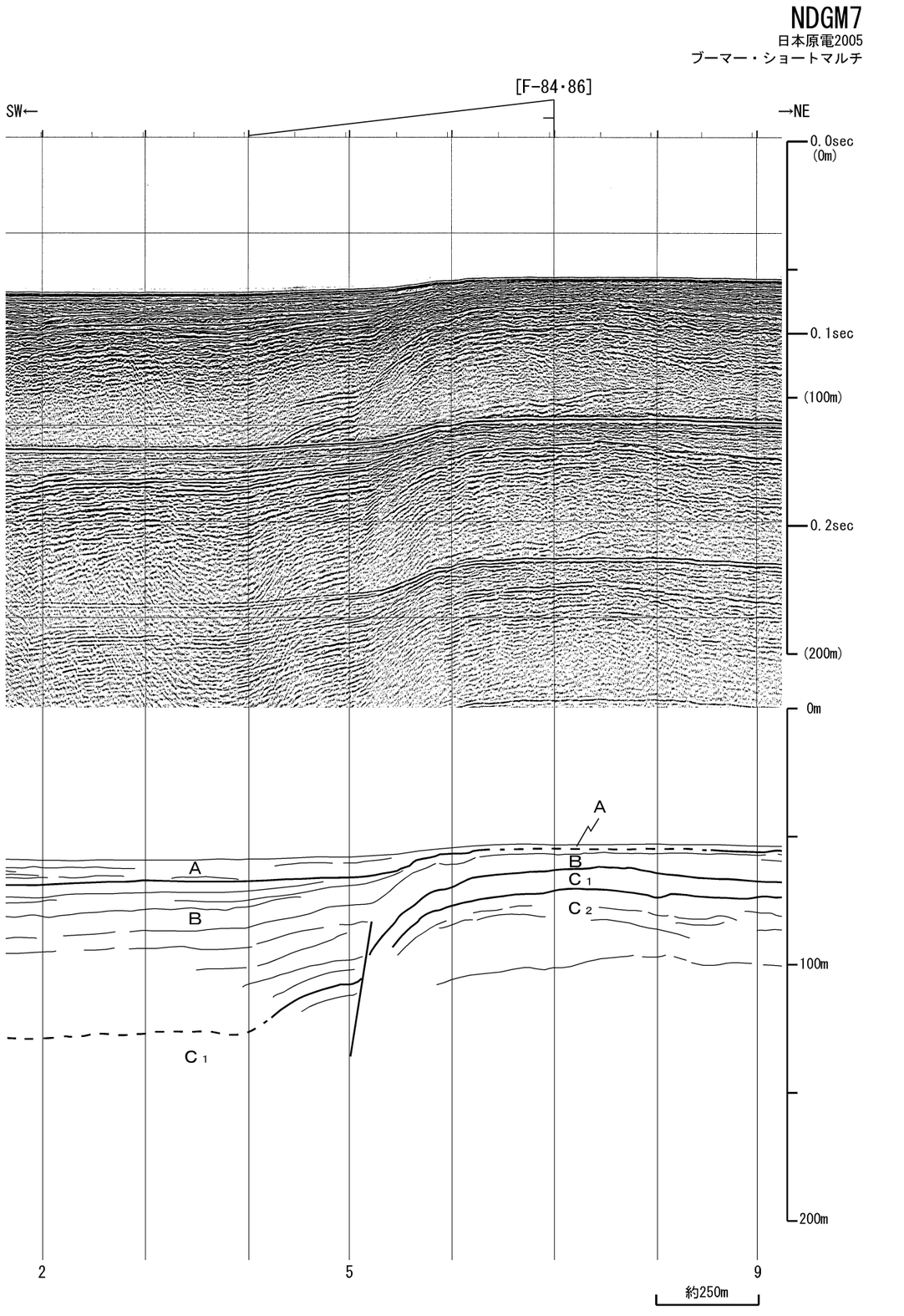
推定地層境界



数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(1)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（No.40-2）



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部　頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部　断層又は撓曲の延長位置

基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

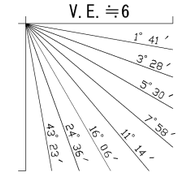
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

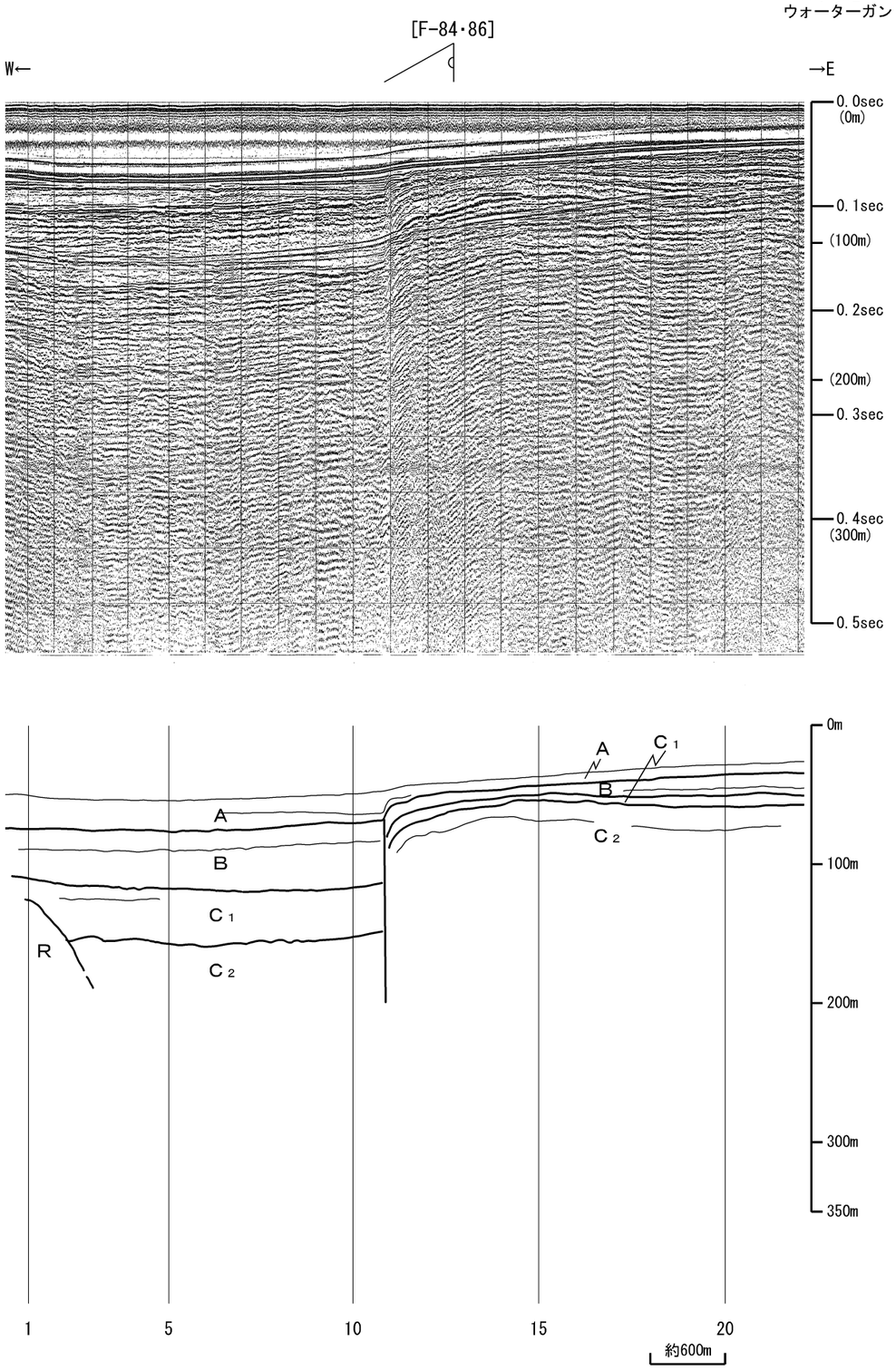


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(2)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（NDGM7）

AW46E
日本原電1998
ウォーターガン



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部　頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部
基部の延長位置　断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

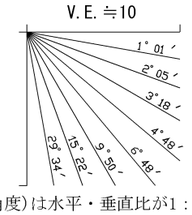
断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

V.E. ≒10



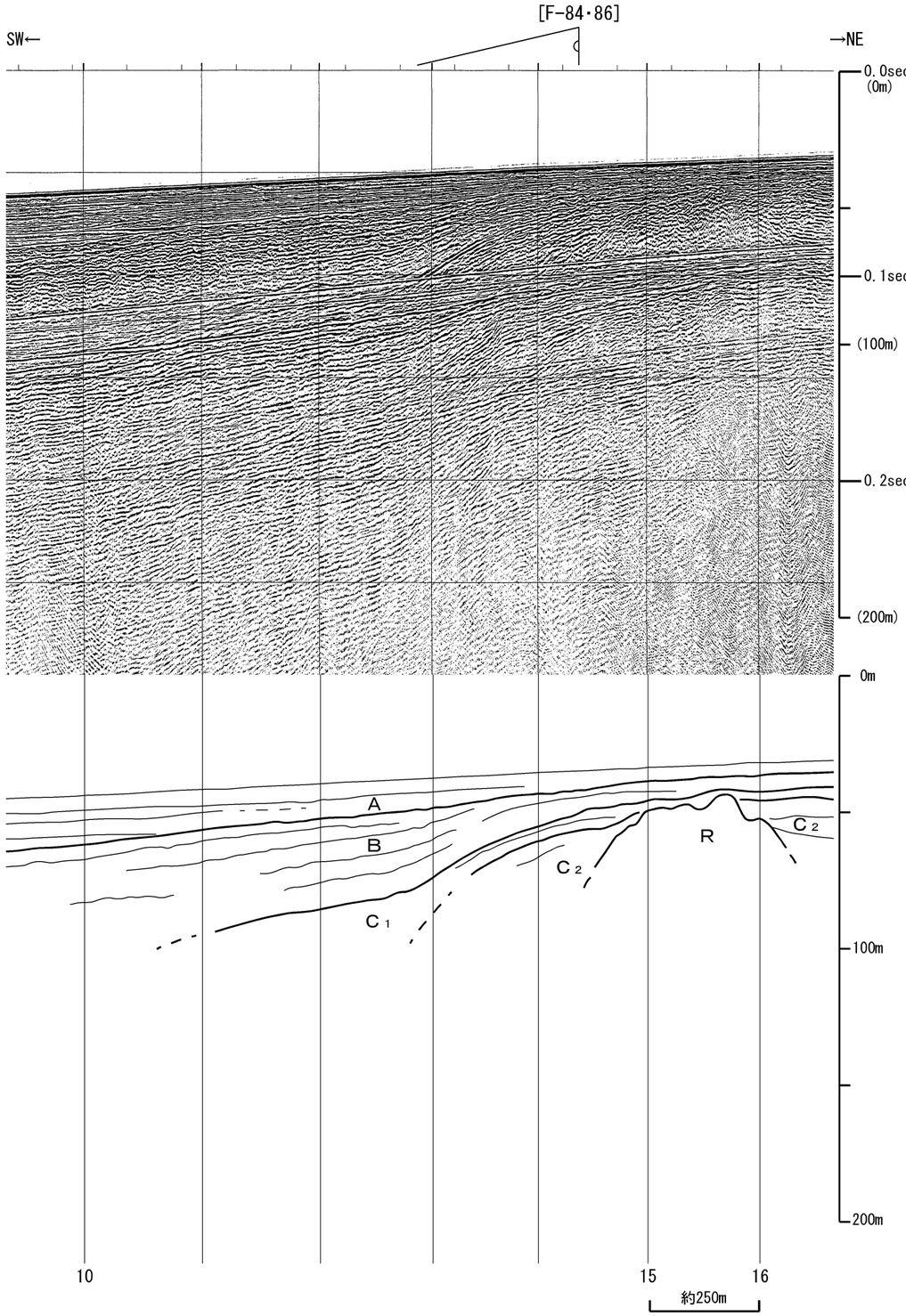
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(3)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（AW46E）

NDGM17

日本原電2005
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部　頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部　断層又は撓曲の延長位置

基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

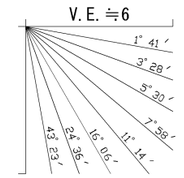
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

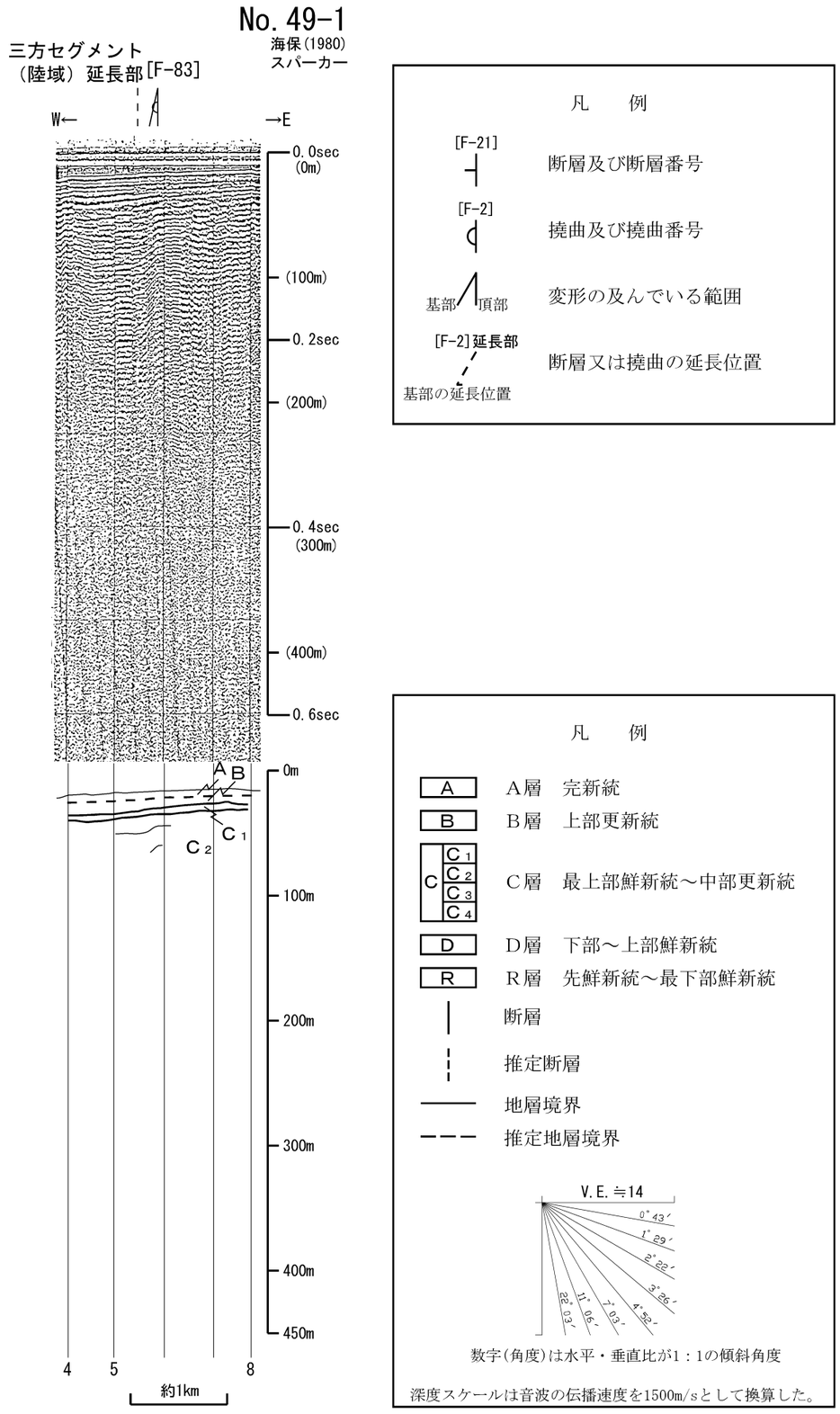


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(4)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（NDGM17）

音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。
地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

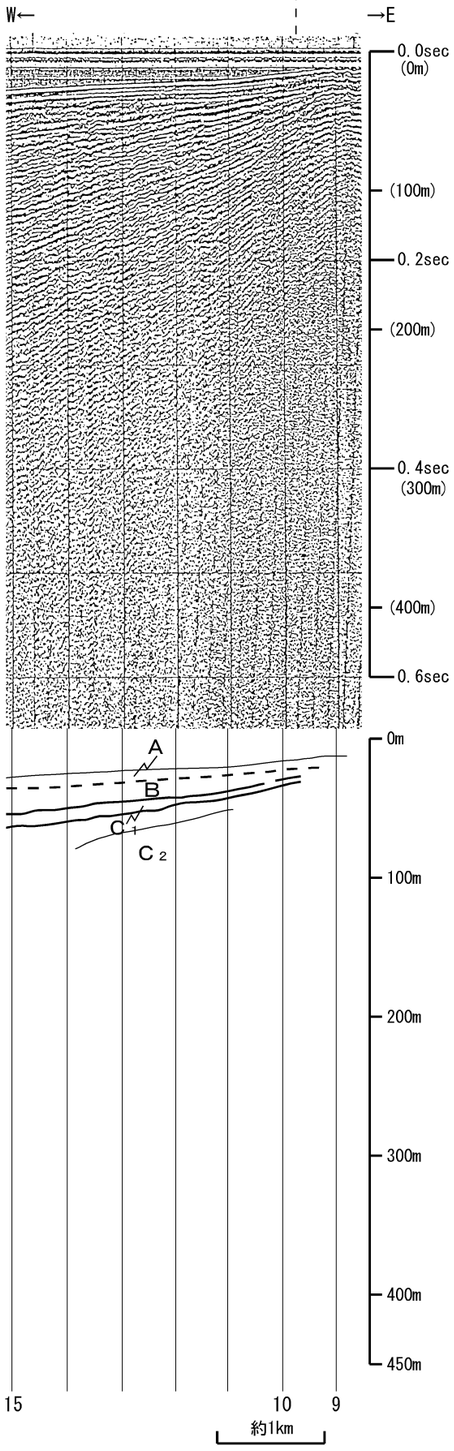


第1.2.3.1.27図(5)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（No.49-1））

No. 105-6

海保(1980)
スパーカー

三方セグメント
（陸域）延長部



音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。

地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

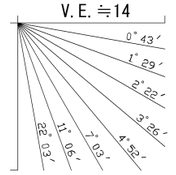
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

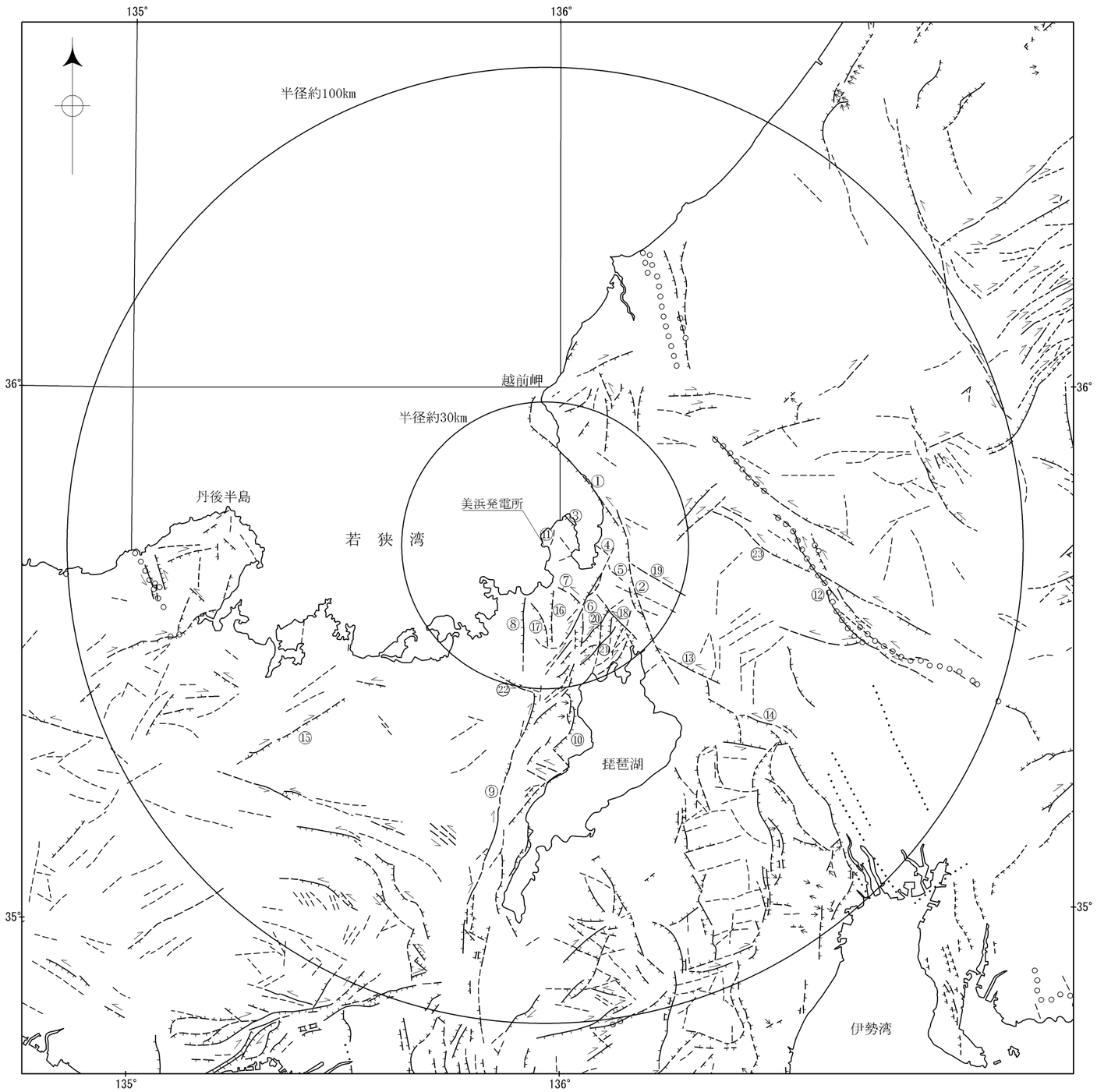
推定地層境界



数字（角度）は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(6)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（No.105-6）



凡　例

陸上活断層

- 活断層であることが確実なもの（確実度Ⅰ）
- 活断層であると推定されるもの（確実度Ⅱ）
- 活断層の疑いのあるリニアメント（確実度Ⅲ）

短線は縦ずれの低下側、矢印は横ずれのむきを示す

- 伏在断層
- 地震断層

活傾動

- 地形面の傾き下る方向

①	甲楽城断層
②	柳ヶ瀬断層
③	浦底断層
④	ウツロギ峠
⑤	池河内断層
⑥	敦賀断層
⑦	野坂断層
⑧	三方断層
⑨	花折断層
⑩	琵琶湖西岸断層系
⑪	白木－丹生
⑫	濃尾地震断層系
⑬	鍛冶屋断層
⑭	関ヶ原断層
⑮	上林川断層
⑯	奥－松屋
⑰	耳川断層
⑱	集福寺断層
⑲	奥川並断層
⑳	駄口断層
㉑	路原断層
㉒	熊川断層
㉓	揖斐川断層

1:1,000,000

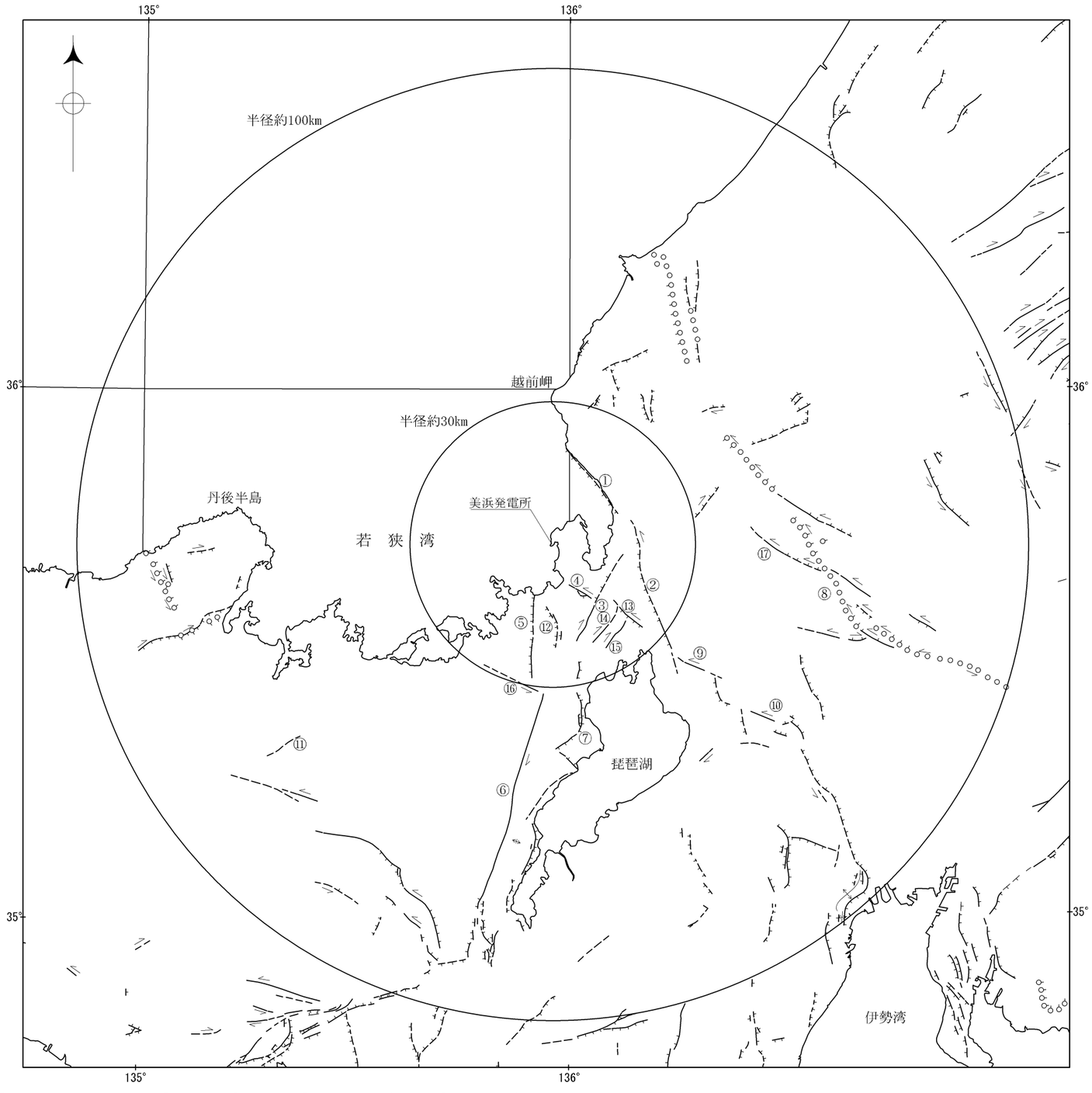
0　25　50km

第1.2.3.1.28図　敷地周辺陸域の活断層分布図「［新編］日本の活断層」

（半径約100km）

凡　例

○○○○○○○	地震断層
———	活断層（主として第四紀後期に活動したもの）
– – – –	推定活断層（同上）
○○○○○○	上記の断層における変位の向き（矢印は走向ずれの方向、ケバは落下側を示す）
———	第四紀後期層の背斜軸



①	甲楽城断層
②	柳ヶ瀬断層
③	敦賀断層
④	野坂断層
⑤	三方断層
⑥	花折断層
⑦	琵琶湖西岸断層系
⑧	濃尾地震断層系
⑨	鍛冶屋断層
⑩	関ヶ原断層
⑪	上林川断層
⑫	耳川断層
⑬	集福寺断層
⑭	駄口断層
⑮	路原断層
⑯	熊川断層
⑰	揖斐川断層

1:1,000,000
0　25　50km

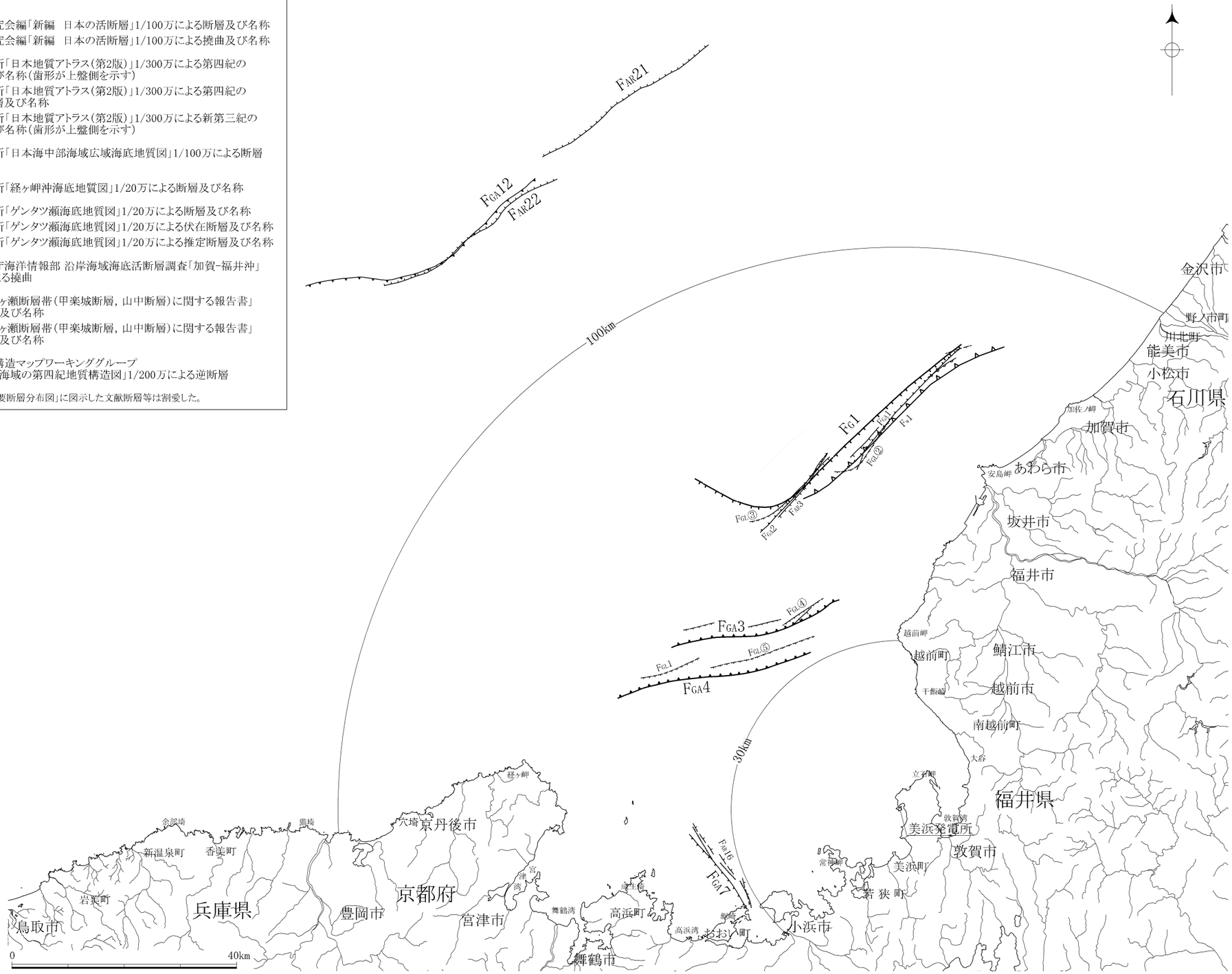
※『50万分の1活構造図「岡山」「金沢」「京都（第2版）」』より作成

第1.2.3.1.29図　敷地周辺陸域の活断層分布図「活構造図」
（半径約100km）

凡　例

- Fas3 / Fas5　活断層研究会編「新編　日本の活断層」1/100万による断層及び名称
- Fas5　活断層研究会編「新編　日本の活断層」1/100万による撓曲及び名称
- FGA7　地質調査所「日本地質アトラス（第2版）」1/300万による第四紀の逆断層及び名称（歯形が上盤側を示す）
- FGA9　地質調査所「日本地質アトラス（第2版）」1/300万による第四紀の横ずれ断層及び名称
- FGA4　地質調査所「日本地質アトラス（第2版）」1/300万による新第三紀の逆断層及び名称（歯形が上盤側を示す）
- FG1　地質調査所「日本海中部海域広域海底地質図」1/100万による断層及び名称
- FGA3　地質調査所「経ヶ岬沖海底地質図」1/20万による断層及び名称
- FGA④　地質調査所「ゲンタツ瀬海底地質図」1/20万による断層及び名称
- FGA③　地質調査所「ゲンタツ瀬海底地質図」1/20万による伏在断層及び名称
- FGA⑧　地質調査所「ゲンタツ瀬海底地質図」1/20万による推定断層及び名称
- 海上保安庁海洋情報部 沿岸海域海底活断層調査「加賀-福井沖」1/10万による撓曲
- F6-1　福井県「柳ヶ瀬断層帯（甲楽城断層，山中断層）に関する報告書」による断層及び名称
- F6-3　福井県「柳ヶ瀬断層帯（甲楽城断層，山中断層）に関する報告書」による撓曲及び名称
- F41　海域地質構造マップワーキンググループ「日本周辺海域の第四紀地質構造図」1/200万による逆断層

＊「敷地前面海域の主要断層分布図」に図示した文献断層等は割愛した。



第1.2.3.1.30図　敷地周辺海域の主要断層分布図

第1.2.3.2.1図　敷地近傍の地質図